

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-158445

(P2017-158445A)

(43) 公開日 平成29年9月14日 (2017.9.14)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 2 3 L 7/10 (2016.01)	A 2 3 L 7/10	F 3 E 0 3 5
B 6 5 D 85/50 (2006.01)	B 6 5 D 85/50	E 3 E 0 8 6
B 6 5 D 65/10 (2006.01)	B 6 5 D 65/10	A 4 B 0 2 3

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 56 頁)

(21) 出願番号	特願2016-43526 (P2016-43526)	(71) 出願人	314014025
(22) 出願日	平成28年3月7日 (2016.3.7)		舟橋 達夫
(11) 特許番号	特許第6103666号 (P6103666)		愛知県一宮市丹陽町五日市場字屋敷259
(45) 特許公報発行日	平成29年3月29日 (2017.3.29)		番地 サンライフ五条 102号
		(74) 代理人	100076473
			弁理士 飯田 昭夫
		(74) 代理人	100112900
			弁理士 江間 路子
		(74) 代理人	100136995
			弁理士 上田 千織
		(74) 代理人	100163164
			弁理士 安藤 敏之
		(72) 発明者	舟橋 達夫
			愛知県一宮市丹陽町五日市場字屋敷259
			番地 サンライフ五条102号
			最終頁に続く

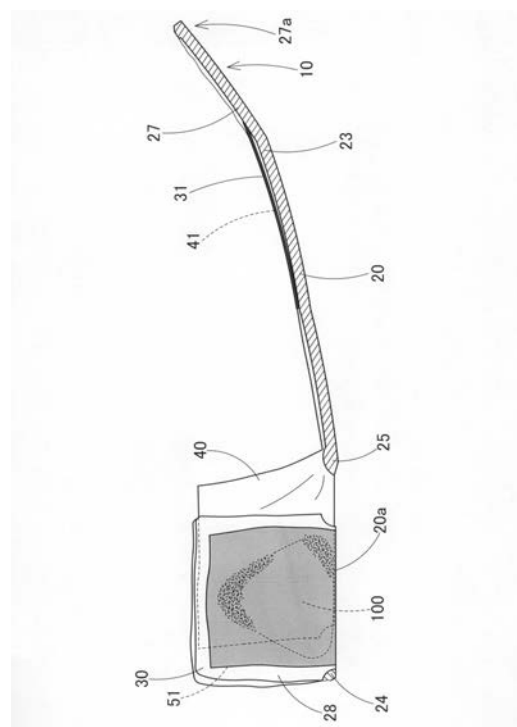
(54) 【発明の名称】 包装おにぎり

(57) 【要約】

【課題】分離する部分を手で分離した後、内シートをその手で抜く際に、その手を持ちかえることなく、より容易に引き抜くことができる包装おにぎりを提供する。

【解決手段】包装おにぎり10は、内シート40と外シート30と内シート40と外シート30に挟まれて配置されるシート状食品50とが積層状態で構成される包装体20が、内シート40の内側でおにぎり100を内包する。包装体20は、おにぎり100を内包した状態において、切除される切除部27を備え、おにぎり100とシート状食品50との間に位置する内シート40と、切除部27の末端部27bとが連結され、切除部27が切除されるときに、おにぎり100とシート状食品50との間に位置する内シート40を引き出し可能とされている。

【選択図】 図7



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内シートと外シートと前記内シートと前記外シートに挟まれて配置されるシート状食品とが積層状態で構成される包装体が、前記内シートの内側でおにぎりを内包する包装おにぎりであって、

前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、切除される切除部を備え、

前記おにぎりとは前記シート状食品との間に位置する前記内シートと、前記切除部の終端部とが連結され、

前記切除部が切除されるときに、前記おにぎりとは前記シート状食品との間に位置する前記内シートを引き出し可能とされていることを特徴とする包装おにぎり。

10

【請求項 2】

前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、前記内シートと前記外シートとが重ね合わされて接着された接着部を有し、

前記切除部が切除されるときに、前記接着部から前記包装体の前記切除部以外の部位を構成する前記内シート及び前記外シートが分離可能とされる分離手段が配設されていることを特徴とする請求項 1 記載の包装おにぎり。

【請求項 3】

前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、前記内シートと前記外シートとが重ね合わされて接着された接着部を有し、

前記切除部が切除されるときに、前記包装体の前記切除部以外の部位を構成する前記内シート及び前記外シートに前記接着部が含まれないように誘導する誘導手段を備えていることを特徴とする請求項 1 記載の包装おにぎり。

20

【請求項 4】

前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、前記内シートと前記外シートとが重ね合わされて接着された接着部を有し、

前記包装体には、前記切除部が切除されるときに、前記内シートと前記外シートとの接着部分を剥離可能な剥離手段が配設されていることを特徴とする請求項 1 記載の包装おにぎり。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

30

【0001】

本発明は、おにぎりとは海苔とを分離状態で包装する包装おにぎりに関する。

【背景技術】

【0002】

従来の包装おにぎりとして、特許文献 1 に記載されるものがあり、これによれば、矩形体フィルムの両短手辺部分を分離片とするミシン目を設け、他の外周縁部を接着代とした外フィルムの内側面上に海苔を重ね、さらにその内側面上の接着代より内方に位置し、かつ、短手辺部のみが上記分離片部分に重なるように内フィルムを重ね、その上で内フィルム上ににぎり飯を載せ、外フィルムを内フィルムと共に二つ折り状に折り返してにぎり飯の上に折り重ね、分離片部分とこの部分に重なった短手辺部とを熱融着等により接着し、接着代同士を熱融着等により接着して形成されていた。

40

【0003】

そして、分離手段によって外フィルムの分離片を分離すれば、この分離片と共に包被状態の外フィルムから内フィルムを引き抜くことができ、容易に海苔とにぎり飯を合体させて海苔巻きおにぎりを得ることができることとされていた。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開平 07-274870 号公報

【発明の概要】

50

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかし、上記特許文献1の包装おにぎりでは、外フィルムの分離片を分離する方向と、内フィルムを引き抜く方向とが直交しているので、分離片を持つ手を持ちかえる必要があり、引き抜き動作がしにくいという問題があった。

【0006】

本発明は上記事情に鑑みて、分離する部分（分離片）を手で分離した後、内シート（内フィルム）をその手で抜く際に、その手を持ちかえることなく、より容易に引き抜くことができる包装おにぎりを提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

請求項1記載の発明では、内シートと外シートと前記内シートと前記外シートに挟まれて配置されるシート状食品とが積層状態で構成される包装体が、前記内シートの内側でおにぎりを内包する包装おにぎりであって、前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、切除される切除部を備え、前記おにぎりとは前記シート状食品との間に位置する前記内シートと、前記切除部の終端部とが連結され、前記切除部が切除されるときに、前記おにぎりとは前記シート状食品との間に位置する前記内シートを引き出し可能とされていることを特徴とする。

【0008】

これによれば、切除部の終端部において切除部とおにぎりとはシート状食品との間に位置する内シートとが連結されていることにより、切除部を切除する手の動きを利用して、おにぎりとはシート状食品との間にある内シートを引き出し可能となる。よって、内シートを手で持ちかえることなく、より容易に引き抜くことができる。

【0009】

また、前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、前記内シートと前記外シートとが重ね合わされて接着された接着部を有し、前記切除部が切除されるときに、前記接着部から前記包装体の前記切除部以外の部位を構成する前記内シート及び前記外シートが分離可能とされる分離手段が配設されている。

【0010】

これによれば、接着部から内シート、外シートを分離可能となるので、内シートを容易に引き抜くことができることにつながる。特に、包装体の密封性を確保するために、切除部の切り始めが接着部に設けられて、そのまま切除部を切除すると、包装体の切除部以外の部位に接着部が残ってしまう場合に、分離手段により、接着部から、内シート、外シートを分離可能となるので、内シートを確実に引き抜くことができる。

【0011】

また、前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、前記内シートと前記外シートとが重ね合わされて接着された接着部を有し、前記切除部が切除されるときに、前記包装体の前記切除部以外の部位を構成する前記内シート及び前記外シートに前記接着部が含まれないように誘導する誘導手段を備えている。

【0012】

これによれば、包装体の切除部以外の部位を構成する内シート及び外シートに接着部が含まれないようになるので、内シートを容易に引き抜くことができることにつながる。

【0013】

また、前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、前記内シートと前記外シートとが重ね合わされて接着された接着部を有し、前記包装体には、前記切除部が切除されるときに、前記内シートと前記外シートとの接着部分を剥離可能な剥離手段が配設されている構成としても、内シートを容易に引き抜くことができる。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】本発明の第一の実施形態における包装体の分解斜視図である。

10

20

30

40

50

- 【図 2】同実施形態の包装体の展開平面図である。
- 【図 3】同実施形態の包装おにぎりの正面図である。
- 【図 4】同実施形態の使用態様の説明図である。
- 【図 5】使用態様の説明図で、図 4 の続きである。
- 【図 6】使用態様の説明図で、図 5 の続きである。
- 【図 7】使用態様の説明図で、図 6 の続きである。
- 【図 8】使用態様の説明図で、図 7 の続きである。
- 【図 9】本発明の第二の実施形態における包装体の分解斜視図である。
- 【図 10】同実施形態の包装体の展開平面図である。
- 【図 11】同実施形態の包装体の後側からみた斜視図である。 10
- 【図 12】同実施形態の包装おにぎりの正面図である。
- 【図 13】同実施形態の使用態様の説明図である。
- 【図 14】使用態様の説明図で、図 13 の続きである。
- 【図 15】使用態様の説明図で、図 14 の続きである。
- 【図 16】使用態様の説明図で、図 15 の続きである。
- 【図 17】使用態様の説明図で、図 16 の続きである。
- 【図 18】本発明の第三の実施形態における包装体の分解斜視図である。
- 【図 19】同実施形態の包装体の展開平面図である。
- 【図 20】おにぎりの包み方の説明図である。 20
- 【図 21】おにぎりの包み方の説明図で、図 20 の続きである。
- 【図 22】おにぎりの包み方の説明図で、図 21 の続きである。
- 【図 23】おにぎりの包み方の説明図で、図 22 の続きである。
- 【図 24】同実施形態の使用態様の説明図である。
- 【図 25】使用態様の説明図で、図 24 の続きである。
- 【図 26】使用態様の説明図で、図 25 の続きである。
- 【図 27】使用態様の説明図で、図 26 の続きである。
- 【図 28】本発明の第四の実施形態における包装体の分解斜視図である。
- 【図 29】同実施形態の海苔の展開平面図である。
- 【図 30】同実施形態の内シート及び壁形成シートの展開平面図である。
- 【図 31】同実施形態の包装おにぎりの斜視図である。 30
- 【図 32】同実施形態の使用態様の説明図である。
- 【図 33】使用態様の説明図で、図 32 の続きである。
- 【図 34】使用態様の説明図で、図 33 の続きである。
- 【図 35】本発明の第四の実施形態における包装おにぎりの変形例の正面図である。
- 【図 36】同変形例の使用態様の説明図である。
- 【図 37】使用態様の説明図で、図 36 の続きである。
- 【発明を実施するための形態】

【0015】

本発明による包装おにぎりの第一の実施形態を図面に基づいて説明する。包装おにぎり 10 は、概略的には、図 1 ～ 3 に示すように、外シート 30 と、内シート 40 と、内シート 40 と外シート 30 に挟まれて配置されるシート状食品 50 とが積層状態で構成される包装体 20 が、折り曲げられた状態でおにぎり 100 を内包するものである。 40

【0016】

包装体 20 は図 1、2 に示すように、外シート 30 と、内シート 40 と、シート状食品 50 と、で構成されている。なお、包装体 20 の説明においては、図 2 の紙面における上下を上下方向、図 2 の紙面における左方向を左、右方向を右とし、図 2 の紙面における手前側を前、奥側を後方向とする。

【0017】

外シート 30 は、透明で可撓性を有するとともに上下方向に易開封性を有する合成樹脂で矩形状に形成されている。外シート 30 の上下の外周縁近傍には、包装おにぎり 10 を 50

開封するときに切れる方向を誘導する、カットテープ 3 1、3 1 が左右方向に沿ってそれぞれ配設されている。外シート 3 0 の右側の後述する幅広部分 2 2 となる部分の近傍には、分離手段としてのミシン目 3 2 が形成されている。

【0018】

内シート 4 0 は、透明で可撓性を有するとともに上下方向に易開封性を有し、かつ、表面が高い滑り性を有する合成樹脂で矩形状に形成され、外シート 3 0 と略同一のサイズとされている。内シート 4 0 の上下の外周縁近傍には、包装おにぎり 1 0 を開封するときに切れる方向を誘導する、カットテープ 4 1、4 1 が左右方向に沿ってそれぞれ配設されている。内シート 4 0 の左側の後述する幅広部分 2 1 となる部分の近傍には、分離手段としてのミシン目 4 2 が形成されている。

10

【0019】

シート状食品 5 0 として、本実施形態では、矩形状の海苔 5 1 が用いられている。海苔 5 1 は、包装体 2 0 に形成された状態において、内部に収納可能となるように、外シート 3 0 及び内シート 4 0 より縦横のサイズが小さく形成されている。

【0020】

包装体 2 0 は、後側から、外シート 3 0、海苔 5 1、内シート 4 0 の順に重ねられ、図 1 の斜線部分に示される、外シート 3 0 及び内シート 4 0 の外周縁部 3 0 a、4 0 a を、熱溶着等して接着することで、内部に海苔 5 1 が収納された袋体に形成される。接着された包装体 2 0 の左右の外周縁部の上下方向における中央部には、左右方向における幅が広く中央側に突出して接着された、幅広部分 2 1、2 2 がそれぞれ設けられている。

20

【0021】

包装体 2 0 の内シート 4 0 の前側、かつ、上部側におにぎり 1 0 0 を配置して、包装体 2 0 を二つ折りして重ね合わせて、既に外シート 3 0 と内シート 4 0 とが接着されている部分（外周縁部）を、略コの字状に接着する。接着された部分が接着部 2 3（特許請求の範囲における接着部に相当する）となる。幅広部分 2 1、2 2 が折り重ねられて接着された部分が、幅広接着部 2 4、2 5 とされる。左側に位置する幅広接着部 2 4 に切り込み 2 6 を形成して包装おにぎり 1 0 が完成する。

【0022】

包装おにぎり 1 0 の機能作用を説明する。機能作用の説明では、図 4～8 の紙面における、上下を上下方向、図 4～8 の紙面における左方向を左、右方向を右とし、図 4～8 の紙面における手前側を前、奥側を後方向とする。

30

【0023】

包装体 2 0 は、幅広接着部 2 4 の切り込み 2 6 より左側を手で持ち上側に引っ張ると、図 4 に示すように、幅広接着部 2 4 で接着されて一体化している外シート 3 0 及び内シート 4 0 は、上側に向かって切れていく。

【0024】

補説すると、接着部 2 3 を含んだ外シート 3 0 及び内シート 4 0 の切り離される側が切除部 2 7 となり、おにぎり 1 0 0 及び海苔 5 1 を覆って残る外シート 3 0 及び内シート 4 0 側が残余部 2 8（特許請求の範囲における包装体の切除部以外の部位に相当する）。となる。（なお、切除部 2 7、残余部 2 8 は、切除部 2 7 が切り離されてから完全に切り離されるまでの状態をいうものとする。）つまり、切除部 2 7 は、接着部 2 3 を含み、包装体 2 0 の折り曲げ部分 2 0 a の、左側（一端側）に始端部 2 7 a が設けられ、右側（他端側）に終端部 2 7 b が設けられていることになる。

40

【0025】

包装体 2 0 が、外シート 3 0 及び内シート 4 0 に配設されたカットテープ 3 1、4 1 まで切れていくと、外シート 3 0 及び内シート 4 0 は、図 5 に示すように、カットテープ 3 1、4 1 に誘導されて右方向に切れていく。外シート 3 0 及び内シート 4 0 が、カットテープ 3 1、4 1 の右端部まで切れると、図 6 に示すように、外シート 3 0 及び内シート 4 0 の易開封性により、接着部 2 3 との境界近傍を下側に向かって切れて行く。そして、包装体 2 0 を構成する外シート 3 0 及び内シート 4 0 が、幅広接着部 2 5 まで切れていくと

50

、幅広接着部 25 に妨げられて内シート 40 の切断はとまる。つまり、残余部 28 の内シート 40 と切除部 27 の内シート 40 が切れずに、終端部 27b で連結された状態が維持される。

【0026】

そして、さらに切除部 27 を手で右側に引っ張ると、図 7 に示すように、外シート 30 は、ミシン目 32 に誘導されて下端まで切れて、幅広接着部 25 から切除される。一方、内シート 40 は、ミシン目 42 に誘導されて残余部 28 に残った幅広接着部 24 から切除される。これにより、内シート 40 が右側に引っ張り出すことが可能となる。

【0027】

換言すれば、外シート 30 と内シート 40 が、重ね合わされて接着された接着部 23 を切除したうえで、切除部 27 と残余部 28 の内シート 40 とを連結させた状態とする。そして、残余部 28 側に残る接着部 23（幅広接着部 24）と残余部 28 側に残る内シート 40 を、切除部 27 側の接着部 23（幅広接着部 25）と残余部 28 側に残る外シート 30 を、分離可能として、残余部 28 側に残る内シート 40 をおにぎり 100 と海苔 51 の間から、右側に引っ張り出せる構成とされている。

【0028】

内シート 40 を引っ張り出すと、図 8 に示すように、外シート 30 が残り、手を汚さずに、海苔 51 に覆われたおにぎり 100 を得ることができる。これにより、手を汚すことなく、包装おにぎり 10 を開封して食べることが可能となる。

【0029】

上記構成の包装おにぎり 10 では、内シート 40 と外シート 30 と内シート 40 と外シート 30 に挟まれて配置されるシート状食品 50 とが積層状態で構成される包装体 20 が、内シート 40 の内側でおにぎり 100 を内包する包装おにぎりであって、包装体 20 は、おにぎり 100 を内包した状態において、切除される切除部 27 を備え、おにぎり 100 とシート状食品 50 との間に位置する内シート 40 と、切除部 27 の終端部 27b とが連結され、切除部 27 が切除されるときに、おにぎり 100 とシート状食品 50 との間に位置する内シート 40 を引き出し可能とされていることを特徴とする。

【0030】

これによれば、切除部 27 の終端部 27b において切除部 27 とおにぎり 100 とシート状食品 50 との間に位置する内シート 40 とが連結されていることにより、切除部 27 を切除する手の動きを利用して、おにぎり 100 とシート状食品 50 との間にある内シート 40 を引き出し可能となる。よって、内シート 40 を手で持ちかえることなく、より容易に引き抜くことができる。

【0031】

また、包装体 20 は、おにぎり 100 を内包した状態において、内シート 40 と外シート 30 とが重ね合わされて接着された接着部 23 を有し、包装体 20 の切除部 27 以外の部位（残余部 28）には、切除部 27 が切除されるときに、接着部 23 から包装体 20 の切除部 27 以外の部位（残余部 28）を構成する内シート 40 及び外シート 30 が分離可能とされる分離手段（ミシン目 32、ミシン目 42）が配設されている。

【0032】

これによれば、接着部 23 から内シート 40、外シート 30 を分離可能となるので、内シート 40 を容易に引き抜くことができることにつながる。本実施形態では、包装体 20 の密封性を確保するために、幅広接着部 24 に切り込み 26 が形成され、切除部 27 を切除するとそのままでは、包装体 20 の切除部 27 以外の部位（残余部 28）に接着部 23（幅広接着部 24、幅広接着部 25）が残ってしまうが、分離手段（ミシン目 32、ミシン目 42）により、接着部 23（幅広接着部 24、幅広接着部 25）から、内シート 40、外シート 30 を分離可能となるので、内シート 40 を確実に引き抜くことができる。

【0033】

また、包装体 20 は、おにぎり 100 を内包した状態において、二つ折りされ、内シート 40 と外シート 30 の外周縁部 30a、40a が重ね合わされて接着された接着部 23

10

20

30

40

50

を有し、切除部 27 は、接着部 23 を含み、包装体 20 の折り曲げ部分 20 a の、一端側に始端部 27 a が設けられ、他端側に終端部 27 b が設けられている。

【0034】

これによれば、接着部 23 が形成されない包装体 20 の折り曲げ部分 20 a の一端側から他端側に向かって接着部 23 を含んだ切除部 27 を切除することになり、切除部 27 を切除するときの、包装体 20 の折り曲げ部分 20 a の一端から他端に向かう手の動きを利用して、おにぎり 100 とシート状食品 50 との間に位置する残余部 28 の内シート 40 を、包装体 20 の折り曲げ部分 20 a に沿って引き出し可能となる。

【0035】

本発明の第二の実施形態を説明する。以下の説明において、第一の実施形態と同じ構成については、同一符号を付し全部又は一部の説明を省略する。なお、包装体 20 A の説明においては、図 10 の紙面における上下を上下方向、図 10 の紙面における左方向を左、右方向を右とし、図 10 の紙面における手前側を前、奥側を後方向とする。

【0036】

包装おにぎり 10 A は、図 9 ～ 12 に示すように、外シート 30 A と、内シート 40 A と、内シート 40 A と外シート 30 A に挟まれて配置されるシート状食品 50 とが積層状態で構成される包装体 20 A が、折り曲げられた状態でおにぎり 100 を内包するものである。

【0037】

外シート 30 A は、外シート 30 と同様の部材であるが、上下方向の長さ L1 が内シート 40 A の上下方向の長さ L2 より長く形成されている。

【0038】

図 9 において、外シート 30 A の中央部の網掛け線を付した部分は、外シート 30 A と内シート 40 A とが折り重ねられて包装体 20 A となったときに、内シート 40 A と重なり合わない余りしろ 33 A とされる。

【0039】

また、外シート 30 A の左側の外周縁部 30 A a の、上下方向における中央部には、左右方向の幅が他の外周縁部 30 A a より幅広に形成された掴み代形成部 34 A が配設されている。

【0040】

内シート 40 A は、内シート 40 と同様の部材であるが、右側の外周縁部の中央部から左右方向における中央に向かって、左右方向に長尺な帯状の連結ブリッジ 43 A が配設されている。連結ブリッジ 43 A は、内シート 40 A と同様の部材で、内シート 40 A の前側に配置され、左右方向の端部 43 A a、43 A b においてのみ、内シート 40 A と接着されている。連結ブリッジ 43 A は、後述する切除部 27 A を切り離すときに、切除部 27 A と後述する残余部 28 A の内シート 40 A と連結可能とするものである。

【0041】

また、内シート 40 A の左側の外周縁部 40 A a の、上下方向における中央部には、左右方向の幅が他の外周縁部 40 A a より幅広に形成された掴み代形成部 44 A が配設されている。掴み代形成部 44 A は、掴み代形成部 34 A より、余りしろ 33 A に相当する分だけ、上下方向の長さが短く形成されている。換言すれば、掴み代形成部 44 A と、掴み代形成部 34 A とは、後述する外シート 30 A と内シート 40 A を接着し包装体 20 A を袋体としたときに、余りしろ 33 A を除いた部分が略同一形状となるように形成されている。

【0042】

包装体 20 A は、図 10、11 に示すように、外シート 30 A の余りしろ 33 を折り合わせ、後側に外シート 30 A の他の部分に対して直交するように形成し、外シート 30 A を内シート 40 A の長さ L2 と略同一の長さとし、後側から外シート 30 A、海苔 51、内シート 40 A の順に重ね合わせ、掴み代形成部 34 A、44 A を含む外周縁部 30 A a、40 A a を接着し、内部に海苔 51 が収納された袋体に形成される。

10

20

30

40

50

【0043】

そして、図10の状態、包装体20Aの内シート40Aの前側、かつ、上部側におにぎり100を配置する。そして、袋体に形成された包装体20Aを二つ折りして重ね合わせて、図12に示すように、既に外シート30Aと内シート40Aとが接着されている部分（外周縁部30Aa、40Aa）を、略コの字状に接着する。

【0044】

このとき、掴み代形成部34Aどうし、及び、掴み代形成部34A、掴み代形成部44A、が折り重ねられて接着された部分が、掴み代25Aとされる。掴み代25Aは、外シート30Aの掴み代形成部34Aどうしが重ね合わされて二枚が重なる二重接着部25Aaと、外シート30A及び内シート40Aが折り重ねられて、四枚が重なる四重接着部25Abとを有することになる。

10

【0045】

また、連結ブリッジ43Aは、包装体20A本体と同様に二つ折りされ端部43Ab側で、既に外シート30Aと内シート40Aとが接着されている部分に挟まれて接着されている。

【0046】

そして、本実施形態では、掴み代25Aを含む、外シート30Aどうし、及び、外シート30Aと内シート40Aとが接着された部分が接着部23A（特許請求の範囲における接着部に相当する）となる。

【0047】

さらに、図12の丸内に示すように、外シート30Aの余りしろ33Aが重ね合わされて接着されている部位（二重接着部25Aa）に、切り込み26Aを形成し、切り込み26Aから内シート40Aの折り曲げ部分40Abの接着部23Aとの境界部分に向かって二重接着部25Aaが切れるように誘導する長円形の誘導孔29Aを複数設けることで、包装おにぎり10Aが完成する。なお、包装体20Aの図12の状態が、特許請求の範囲における「おにぎりを内包した状態」となる。

20

【0048】

包装おにぎり10Aの機能作用を説明する。本実施形態体の機能作用の説明では、図12～17の紙面における、上下を上下方向、図12～17の紙面における左方向を左、右方向を右とし、図12～17の紙面における手前側を前、奥側を後方向とする。

30

【0049】

包装体20Aを、図12の状態から、掴み代25Aの二重接着部25Aaに形成された切り込み26Aより左側を手で持ち上側に引っ張ると、図13に示すように、誘導孔29Aに誘導されて、内シート40Aの四重接着部25Abと接着されていない部位の境界に向かって、二重接着部25Aaを斜め上方に切れていく。換言すれば、残余部28A側の内シート40Aに接着部23Aが含まれないように切れていく。

【0050】

そして、二重接着部25Aaと、切り込み26Aと、誘導孔29Aと、で残余部28A側の内シート40Aに接着部23Aが含まれないように誘導する誘導手段21Aが構成されていることになる。

40

【0051】

また、本実施形態では、接着部23Aを含んだ外シート30A及び内シート40Aの切り離される側が切除部27A（左側が始端部27Aaとなる）となり、おにぎり100及び海苔51を覆って残る外シート30A及び内シート40A側が残余部28A（特許請求の範囲における包装体の切除部以外の部位に相当する）となる。

【0052】

包装体20Aは、図13に示すように、残余部28Aの内シート40Aに、接着部23Aを含まない状態で、外シート30A及び内シート40Aが、上側に向かって切れていく。

【0053】

50

その後、切除部 27A が、外シート 30A 及び内シート 40A に配設されたカットテープ 31、41 まで切れていくと、外シート 30A 及び内シート 40A は、図 14 に示すように、カットテープ 31、41 に誘導されて右方向に切れていく。

【0054】

外シート 30A 及び内シート 40A が、カットテープ 31、41 の右端部まで切れると、図 15 に示すように、外シート 30A 及び内シート 40A の易開封性により、接着部 23 との境界近傍を下側に向かって切れて行く。

【0055】

そして、図 16 に示すように、包装体 20A を構成する外シート 30A 及び内シート 40A が、折れ曲がり部 30Ab、40Ab まで切れていく。

10

【0056】

本実施形態の場合、外シート 30A は、接着部 23A を含んだ切除部 27A 側と、残余部 28A 側とに、終端部 27Ab 側において、完全に切り離され分離する。また、内シート 40A は、連結ブリッジ 43A との接着部分である連結ブリッジ 43A の端部 43Aa、43Ab の間の外側をまわり込みながら切れていく。つまり、連結ブリッジ 43A は、外シート 30A 及び内シート 40A の内側に配置され、端部 43Aa、43Ab においてのみ、内シート 40A と接着されているので、残余部 28A 側の内シート 40A と切除部 27A 側の内シート 40A が、終端部 27Ab 側で連結された状態が維持される。

【0057】

以上のことから、連結ブリッジ 43A と、上下方向に易開封性を有する、外シート 30A 及び内シート 40A とで、接着部 23A が残余部 28A の内シート 40A 及び外シート 30A 側に含まれないように誘導する誘導手段 22A が構成される。

20

【0058】

一方、残余部 28A の内シート 40A には接着部 23A は残らない。これにより、内シート 40A が右側に引っ張り出すことが可能となる。

【0059】

換言すれば、外シート 30A と内シート 40A が、重ね合わされて接着された接着部 23A を切除したうえで、切除部 27A と残余部 28A の内シート 40A とを連結させた状態として、残余部 28A 側に残る内シート 40A をおにぎり 100 と海苔 51 の間から、右側に引っ張り出せる構成とされている。

30

【0060】

内シート 40A を引っ張り出すと、図 17 に示すように、外シート 30A が残り、手を汚さずに、海苔 51 に覆われたおにぎり 100 を得ることができる。

【0061】

上記構成の包装おにぎり 10A によっても、内シート 40A を引っ張り出すと、外シート 30A が残り、手を汚さずに、海苔 51 に覆われたおにぎり 100 を得ることができる。これにより、手を汚すことなく、包装おにぎり 10A を開封して食べることが可能となる。

【0062】

上記構成の包装体 20A では、おにぎり 100 を内包した状態において、内シート 40A と外シート 30A とが重ね合わされて接着された接着部 23A を有し、切除部 27A が切除されるときに、包装体 20A の切除部 27A 以外の部位（残余部 28A）を構成する内シート 40A 及び外シート 30A に接着部 23A が含まれないように誘導する誘導手段 21A（二重接着部 25Aa、切り込み 26A、誘導孔 29A）、22A（外シート 30A、内シート 40A、連結ブリッジ 43A）を備えている。

40

【0063】

これによれば、包装体 20A の切除部 27A 以外の部位（残余部 28A）を構成する内シート 40A 及び外シート 30A に接着部 23A が含まれないようになるので、内シート 40 を容易に引き抜くことができることにつながる。

【0064】

50

本発明の第三の実施形態を説明する。実施する際には、シート状食品１６０、外シート１３０及び内シート１４０に線は付されないが、理解を容易にするため、図面に二点鎖線を付して説明する。二点鎖線は、各構成部分のおおよその境界、折り曲げ部分を示すものとする。

【００６５】

包装おにぎり１０Ｂは、図１８～２３に示すように、外シート１３０と、内シート１４０と、内シート１４０と外シート１３０に挟まれて配置されるシート状食品１６０とが積層状態で構成される包装体１２０が、折り曲げられた状態でおにぎり１００を内包するものである。

【００６６】

包装体１２０は、図１８、１９に示すように、外シート１３０と、内シート１４０と、シート状食品１６０と、で構成されている。なお、包装体１２０の図１９～２３の説明においては、図１９の紙面における上下を上下方向、図１９の紙面における左方向を左、右方向を右とし、図１９の紙面における手前側を前、奥側を後方向とする。

【００６７】

外シート１３０は、可撓性を有する合成樹脂で形成され、三角柱形状に形成されたおにぎり１００の底面部分を覆う、三角形状に形成された二つの三角壁部１３１、１３２と、長方形形状に形成され側面部分を覆う三つの側壁部１３３、１３４、１３５と、を有している。

【００６８】

側壁部１３３、１３４、１３５は、三角壁部１３２の各辺からそれぞれ外側に向かって延設されている。三角壁部１３１は、側壁部１３３の短手方向の三角壁部１３２とは反対側の辺から延設されている。

【００６９】

側壁部１３３の左右方向の両端部から接着片１３３ａ、１３３ｂがそれぞれ延設されている。側壁部１３４の長手方向における側壁部１３３に近い側の端部から台形状の接着片１３４ａが延設されている。側壁部１３５の長手方向における側壁部１３３に近い側の端部から台形状の接着片１３５ａが延設されている。

【００７０】

側壁部１３４の短手方向の三角壁部１３２とは反対側の辺から台形状の覆い片１３６が、側壁部１３５の短手方向の三角壁部１３２とは反対側の辺から台形状の覆い片１３７が、延設されている。

【００７１】

側壁部１３５の長手方向における接着片１３５ａとは反対側の端部には、手で把持可能な把持片１３５ｂが延設されている。側壁部１３５の短手方向の両端部には、包装おにぎり１０Ｂを、開封切除するときに切る方向を誘導、補助する、カッターテープ１３８、１３８が配設されている。

【００７２】

側壁部１３３と、接着片１３３ｂとの境界近傍には、ミシン目１３９（特許請求の範囲の分離手段に相当する）が形成されている。

【００７３】

内シート１４０は、可撓性を有するとともに表面が高い滑り性を有する合成樹脂で、長方形形状に形成され外シート１３０と略同一のサイズとされている。

【００７４】

内シート１４０は、三角形状に形成されおにぎり１００の底面部分を覆う二つの三角壁部１４１、１４２と、三角柱形状に形成されたおにぎり１００の側面部分を覆う、長方形形状に形成された五つの側壁部１４３、１４４、１４５、１４６、１４７と、を有している。

【００７５】

側壁部１４３、１４４、１４５は、三角壁部１４１の各辺からそれぞれ外側に向かって

10

20

30

40

50

延設されている。三角壁部 142 は、側壁部 145 の短手方向の三角壁部 141 とは反対側の辺から延設されている。三角壁部 142 の側壁部 145 と連設していない二つの辺からさらに、長方形の側壁部 146、147 が延設されている。

【0076】

側壁部 143 の長手方向における側壁部 144 に近い側の端部には、蓋片 143a が配設されている。側壁部 145 の左右方向の両端部から接着片 145a、145b がそれぞれ延設されている。側壁部 146 の長手方向における側壁部 147 に近い側の端部には、蓋片 146a が配設されている。

【0077】

側壁部 144 の後側には帯状の位置決めシート 148 が、側壁部 147 の後側には帯状の位置決めシート 149 が、上下方向に沿ってそれぞれ配置されている。位置決めシート 148、149 は、側壁部 144、147 の長手方向に沿って接着される接着部位 148a、149a が設けられている。換言すれば、位置決めシート 148、149 は、側壁部 144、147 の海苔 161 が配置される予定位置の外縁近傍で側壁部 144、147 と接着されている。

【0078】

側壁部 145 と、接着片 145a との境界近傍には、ミシン目 150（特許請求の範囲の分離手段に相当する）が形成されている。

【0079】

シート状食品 160 として、本実施形態では、海苔 161 が用いられ、海苔 161 は、図 18 に示すように、菱形を、左右の対向する頂部において、破線で示した三角形の領域 160a を切り取るとともに、上下の頂部において、破線で示した四角形状の領域 160b を切り取った形状に裁断されている。

【0080】

海苔 161 は、外シート 130 の三角壁部 131、132 と側壁部 133 とを合わせた部分から、三角壁部 131、132 の外周縁から若干はみ出る程度のサイズに形成されている。また、海苔 161 は、内シート 140 の三角壁部 141、142 と側壁部 143、144、145、146、147 とを合わせた部分よりサイズが小さく形成されている。

【0081】

包装おにぎり 10B の製造方法は、左側から、内シート 140 と位置決めシート 148、149 との間に、左側から海苔 161 を進入させて、海苔 161 の位置決めをする。図 19 に参照するように、海苔 161 は、内シート 140 と重ね合わされた状態において、接着部位 148a、149a により、上、下、右への移動を規制される。

【0082】

そして、図 18、19 に示すように、内シート 140 と海苔 161 が重ね合わされたものを外シート 130 の前側に配置する。このとき、三角壁部 131 と三角壁部 141、三角壁部 132 と三角壁部 142、側壁部 133 と側壁部 145、側壁部 134 と側壁部 146、側壁部 135 と側壁部 147、接着片 133a と接着片 145a、接着片 133b と接着片 145b、が海苔 161 を挟んで重ね合わされた状態となっている。

【0083】

接着片 133a と接着片 145a、接着片 133b と接着片 145b、が熱溶着等されて仮接着部 121、122 が形成され、包装体 120 となる。そして、内シート 140 の三角壁部 142 におにぎり 100 を乗せる。

【0084】

換言すれば、後側から、外シート 130、海苔 161、内シート 140 の順に重ねられ、その上におにぎり 100 が乗せられることになる。

【0085】

その後、図 20 に示すように、外シート 130 の側壁部 133 及び三角壁部 131、海苔 161、内シート 140 の側壁部 145 及び三角壁部 141、を重ね合わされた状態で、おにぎり 100 を覆うように折り曲げる。そして、内シート 140 の側壁部 143、1

10

20

30

40

50

４４をおにぎりの側面を覆うように折り曲げ、蓋片１４３ａを側壁部１４４の外側に重ね合わせる。

【００８６】

次に、図２１に示すように、内シート１４０の側壁部１４６、１４７を、側壁部１４３、１４４の外側を覆うように折り曲げ、蓋片１４６ａを側壁部１４７の外側に重ね合わせる。

【００８７】

そして、図２２に示すように、外シート１３０の側壁部１３４、１３５を折り曲げ側壁部１４６、１４７の外側を覆い、さらに、図２３に示すように、覆い片１３６、１３７を外シート１３０の三角壁部１３１の外側に重ね合わせ、シール１２３で貼着固定するとともに、把持片１３５ｂを側壁部１３４に接着する。そして、仮接着部１２１（接着片１３３ａと接着片１４５ａ）と接着片１３４ａ、仮接着部１２２（接着片１３３ｂ、接着片１４５ｂ）と接着片１３５ａ、が熱溶着等されて接着され接着部１２４、１２５が形成されて包装おにぎり１０Ｂが完成する。

【００８８】

包装おにぎり１０Ｂの機能作用を説明する。把持片１３５ｂを手で持ち、図２４～２５に示すように、側壁部１３５を接着部１２５側に引っ張ると、カットテープ１３８、１３８に誘導されて、三角壁部１３２及び覆い片１３７から切り離されていく。本実施形態では、切り離される側壁部１３５が切除部１２６となり、残りの部分が残余部１２７となる。

【００８９】

つまり、包装体１２０において、切除部１２６は、把持片１３５ｂ側に始端部１２６ａが設けられ、接着片１３５ａ側に終端部１２６ｂが設けられていることになる。

【００９０】

また、接着部１２５は、図２４等 to 示すように、上から接着片１３５ａ、接着片１４５ｂ、接着片１３３ｂの順に重ね合わされている。つまり、接着片１３５ａと接着片１４５ｂが接着されて、外シート１３０の側壁部１３５と内シート１４０の側壁部１４５とが連結されていることになる。

【００９１】

さらに、側壁部１３５を引っ張ることで、図２５、２６に示すように、ミシン目１５０が切れて側壁部１４５が接着部１２４から分離するとともに、ミシン目１３９が切れて側壁部１３３が接着部１２５から分離して、内シート１４０が引っ張りだされる。

【００９２】

このとき、側壁部１４３と側壁部１４６とは重ね合わされているのみで接着されていないので、側壁部１３５を引っ張ることによって、側壁部１４３と側壁部１４６とで構成される内シート１４０の側面部分と接するおにぎり１００の側面部分の角部分に、側壁部１４３と側壁部１４６が当たって徐々に開いていき、側壁部１４３が三角壁部１３１に、側壁部１４６が三角壁部１３２に、沿うように開放され、側壁部１４３と側壁部１４６とが重ね合わされた状態が解除されて、内シート１４０が引っ張り出すことが可能となる。

【００９３】

内シート１４０を引っ張り出すと、図２７に示すように、外シート１３０（残余部１２７）が残り、手を汚さずに、海苔１６１に覆われたおにぎり１００を得ることができる。これにより、手を汚すことなく、包装おにぎり１０Ｂを開封して食べることが可能となる。

【００９４】

上記構成の包装おにぎり１０Ｂでは、切除部１２６の終端部１２６ｂにおいて切除部１２６と残余部１２７の内シート１４０とが連結されていることにより、切除部１２６を切除する手の動きを利用して、おにぎり１００とシート状食品１６０との間にある残余部１２７の内シート１４０を引き出し可能となる。また、第一の実施形態の包装おにぎり１０、第二の実施形態の包装おにぎり１０Ａに比して、切除部１２６が小さくなるので、引っ

10

20

30

40

50

張り出す動作領域を小さくすることができる。

【0095】

また、おにぎり100を内包した状態において、内シート140と外シート130とが重ね合わされて接着された接着部124、125を有し、包装体120の切除部126以外の部位（残余部127）には、切除部126が切除されるときに、接着部124、125から包装体120の切除部126以外の部位を構成する内シート140及び外シート130が分離可能とされる分離手段（ミシン目139、ミシン目150）が配設されている。

【0096】

これによれば、接着部124、125から内シート140、外シート130を分離可能となるので、内シート140を容易に引き抜くことができることにつながる。本実施形態では、側壁部135を引っ張って開封する構成とされ、切除部126を切除するとそのままでは、包装体120の切除部126以外の部位（残余部127）に接着部124、125が残ってしまうが、分離手段（ミシン目139、ミシン目150）により、接着部124、125から内シート140、外シート130を分離可能となるので、内シート140を確実に引き抜くことができる。

【0097】

本発明の第四の実施形態を説明する。実施する際には内シート240、シート状食品260及び開封シート270には、線は付されないが、理解を容易にするため、図面に二点鎖線を付して説明する。二点鎖線は、各構成部分のおおよその境界、折り曲げ部分を示すものとする。

【0098】

包装おにぎり100Cは、図31に示すように、内シート240と外シート230と内シート240と外シート230に挟まれて配置されるシート状食品260とが積層状態で構成される包装体220が、内シート240の内側でおにぎり100を内包する。

【0099】

包装体220は、図28、31に示すように、外シート230と、内シート240と、シート状食品260と、開封シート270と、で構成されている。なお、包装体220の説明において、図28を参照する場合においては、図28の矢印の、Fを前、Bを後ろ、Rを右、Lを左、Uを上、Dを下、とする。

【0100】

外シート230は、可撓性を有する合成樹脂で形成され、図28に示すように、三角形に形成され前後方向において対向して配置される二つの三角壁部231、232と、長方形に形成され三角壁部231、232の下側の辺、左斜め上側の辺、どうしを連結する二つの側壁部233、234と、を有して、右斜め上方側が開口する中空な略三角柱形状に形成されている。外シート230の開口端縁部から外側に向かって延設されるフランジ部235が配設されている。

【0101】

内シート240は、可撓性を有するとともに表面が高い滑り性を有する合成樹脂で、図30に示すように、三角形に形成された二つの三角壁部241、242と、長方形に形成され三角壁部241、242の対向する辺どうしを連結する側壁部243と、を有している。

【0102】

側壁部243の長手方向における一端側には、略矩形状の蓋片243aが配設されている。側壁部243の長手方向における他端側には、略矩形状の接着部形成片243bが配設されている。

【0103】

三角壁部241の蓋片243aに近い側の辺には、長方形の側壁形成片部244が延設され、三角壁部242の蓋片243aに近い側の辺には、長方形の側壁形成片部245が延設され、三角壁部241の接着部形成片243bに近い側の辺には、長方形のフ

10

20

30

40

50

ランジ形成片 2 4 6 が延設され、三角壁部 2 4 2 の接着部形成片 2 4 3 b に近い側の辺には、長方形形状のフランジ形成片 2 4 7 が延設されている。

【0 1 0 4】

三角壁部 2 4 1、2 4 2 は、三角壁部 2 3 1、2 3 2 より若干小さめのサイズに形成され、側壁部 2 4 3 は、側壁部 2 3 3、2 3 4 より若干小さめのサイズに形成されている。側壁形成片部 2 4 4 と、側壁形成片部 2 4 5 とを合わせたサイズは、側壁部 2 3 3、2 3 4 より若干小さいサイズに形成されている。また、フランジ形成片 2 4 6、2 4 7 の突出幅は、フランジ部 2 3 5 の突出幅より小さく設定されている。

【0 1 0 5】

壁形成シート 2 4 8 は、可撓性を有する合成樹脂で帯状に形成され、側壁形成片部 2 4 4 及び、側壁形成片部 2 4 5 の長手方向における長さとは略二倍の長さに設定されている。壁形成シート 2 4 8 の長手方向における一方の端部には、略矩形形状の接着部形成片 2 4 8 c が延設されている。

【0 1 0 6】

壁形成シート 2 4 8 の接着部形成片 2 4 8 c を除いた部分の長手方向における中央部分に折り曲げ部 2 4 8 a が形成されている。壁形成シート 2 4 8 の長手方向における接着部形成片 2 4 8 c とは反対側の端部から折り曲げ部 2 4 8 a までの表裏いずれか一方の面（図 3 0 においては紙面奥側の面）が、側壁形成片部 2 4 4 及び側壁形成片部 2 4 5 と接着可能な接着面 2 4 8 b とされている。

【0 1 0 7】

壁形成シート 2 4 8 は、接着面 2 4 8 b で側壁形成片部 2 4 4、側壁形成片部 2 4 5 と接着され、おにぎり 1 0 0 を内包した状態において、内シート 2 4 0 の側の側壁部分を形成するものである。

【0 1 0 8】

接着部形成片 2 4 3 b と、接着部形成片 2 4 8 c は、外シート 2 3 0 のフランジ部 2 3 5 と重ね合わせたときに、フランジ部 2 3 5 より突出するように形成されている。

【0 1 0 9】

シート状食品 2 6 0 として、本実施形態では、図 2 9 に示すように、二枚の海苔 2 6 1、2 6 5 が用いられている。海苔 2 6 1 は、三角形形状の三角壁部 2 6 2 と、三角壁部 2 6 2 の二辺からそれぞれ外側に向かって延設され、長方形形状に形成されたふたつの側壁部 2 6 3、2 6 4 と、を有している。海苔 2 6 5 は、三角形形状の三角壁部 2 6 6 と、三角壁部 2 6 6 の二辺からそれぞれ外側に向かって延設され、長方形形状に形成されたふたつの側壁部 2 6 7、2 6 8 と、を有している。三角壁部 2 6 2、2 6 6 は、三角壁部 2 3 1、2 3 2 より若干小さめのサイズに形成され、側壁部 2 6 3、2 6 4、2 6 7、2 6 8 は、側壁部 2 3 3、2 3 4 より若干小さめのサイズに形成されている。

【0 1 1 0】

開封シート 2 7 0 は、可撓性を有して角部分が丸く形成された略矩形形状のシートが用いられ、図 2 8 に示すように、フランジ部 2 3 5 の外形形状と略同一の形状とされ、外シート 2 3 0 の開口部分を覆い可能とされている。開封シート 2 7 0 は、長手方向における一端側に半長円状に突出する掴み片 2 7 1 と、長手方向における他端側に半長円状に突出する連結片 2 7 2 を有している。開封シート 2 7 0 は、外周縁部が外シート 2 3 0 のフランジ部 2 3 5 と接着されるもので、掴み片 2 7 1 と、連結片 2 7 2 は、フランジ部 2 3 5 と重ね合わせたときに、フランジ部 2 3 5 より突出するように形成されている。

【0 1 1 1】

包装おにぎり 1 0 C の製造方法は、予め海苔 2 6 1、2 6 5 を、図 2 8 に示すように、米等のでんぷん質からなる糊で側壁部 2 6 3 と側壁部 2 6 7、側壁部 2 6 4 と側壁部 2 6 8 どうしを接着して、斜め上方が開口した中空な略三角柱形状に形成する。

【0 1 1 2】

外シート 2 3 0 内にシート状食品 2 6 0（海苔 2 6 1、2 6 5）をセットした状態にしておく。内シート 2 4 0 の側壁形成片部 2 4 4 を三角壁部 2 4 1 に対して、側壁形成片部

10

20

30

40

50

245を三角壁部242に対して、内側に折り曲げ、壁形成シート248の接着面248bを外側から貼り付けて、内シート240に側壁部233に対応する側壁を形成する。そして、壁形成シート248を折り返して貼り付けた部分と重ね合わせ、接着部形成片248cを内シート240の開口縁部に沿って折り曲げ、内シート240を、図28に示すような、斜め上方が開口した中空な略三角柱形状に形成する。

【0113】

そして、内シート240の内側におにぎり100を配置する。おにぎり100を内包した内シート240を、外シート230の内側に配置されたシート状食品260（海苔261、265）の内側に配置する。

【0114】

10

フランジ部235に、フランジ形成片246、247、接着部形成片243b、接着部形成片248cを重ね合わせて、内シート240、外シート230の開口縁部を覆うように開封シート270を配置して、外シート230のフランジ部235と開封シート270の外周縁部とを接着して、包装おにぎり100C（包装体220）が完成する。

【0115】

このとき、図31（海苔261、265は省略してある）に示すように、接着部形成片243b、接着部形成片248cは、フランジ部235及び開封シート270と接着されるが、内シート240のフランジ形成片246、247は、フランジ部235と開封シート270に挟み込まれるのみで、接着されない。

【0116】

20

そして、接着部形成片243bと開封シート270、接着部形成片248cと開封シート270、が接着される部分の接着力は、フランジ部235と接着部形成片243b、接着部形成片248cが接着される部分の接着力より強固なものとする。

【0117】

換言すれば、開封シート270で開封するときに、フランジ部235と内シート240（接着部形成片243b、接着部形成片248c）との接着部分が剥がれて、内シート240と開封シート270の接着部分が剥がれない状態とする。

【0118】

本実施形態では、剥がれやすく接着された、フランジ部235と接着部形成片248cとの接着部分、フランジ部235と接着部形成片243bとの接着部分、が接着部221、接着部222となるとともに、内シート240と外シート230との接着部分を剥離可能な剥離手段223、剥離手段224となる。

30

【0119】

また、図31、32に示すように、始端部226aにおいては、上から掴み片271、接着部形成片248c、フランジ部235の順に重ね合わされ、上端部分で掴み片271、接着部形成片248cのみが接着されている。また、終端部226b側においては、上から連結片272、接着部形成片243b、フランジ部235の順に重ね合わされ、下端部分で連結片272、接着部形成片243bのみが接着されている。

【0120】

40

包装おにぎり100Cの機能作用を説明する。掴み片271と、接着部形成片248cとが接着された部分を手で持ち、図32の状態から、開封シート270を接着部形成片243b側に引っ張ると、接着部形成片248cと開封シート270の掴み片271と、接着部形成片248cとフランジ部235との接着力の違いから、フランジ部235と接着部形成片248cとの接着部分が剥がれる。

【0121】

そして、開封シート270を引っ張ると図33に示すように、壁形成シート248が引っ張られて、側壁形成片部244及び側壁形成片部245から壁形成シート248の接着面248bが剥がれていき、壁形成シート248が全て引き出されて内シート240の側壁部分が開放される。

【0122】

50

本実施形態では、図 3 3 に示すように、剥がされる開封シート 2 7 0 と壁形成シート 2 4 8 が切除部 2 2 6 となり、残りの部分が残余部 2 2 7 となる。つまり、包装体 2 2 0 において、切除部 2 2 6 は、掴み片 2 7 1 側に始端部 2 2 6 a が設けられ、連結片 2 7 2 側に終端部 2 2 6 b が設けられていることになる。

【0 1 2 3】

また、内シート 2 4 0 のフランジ形成片 2 4 6、2 4 7 は、フランジ部 2 3 5 と開封シート 2 7 0 に挟み込まれるのみであるので、開封シート 2 7 0 とフランジ部 2 3 5 とが引き剥がされることにより、フランジ部 2 3 5 及び開封シート 2 7 0 と離れていく。

【0 1 2 4】

さらに、開封シート 2 7 0 を剥がしていくと、図 3 4 に示すように、連結片 2 7 2 と、接着部形成片 2 4 3 b が接着されて連結されていることにより、内シート 2 4 0 を引っ張り出すことが可能となる。

【0 1 2 5】

内シート 2 4 0 を引っ張り出すと、外シート 2 3 0 (残余部 2 2 7) が残り、手を汚さずに、海苔 2 6 1、2 6 5 に覆われたおにぎり 1 0 0 を得ることができる。このような構成によっても、手を汚すことなく、包装おにぎり 1 0 C を開封して食べることが可能となる。

【0 1 2 6】

上記構成の包装おにぎり 1 0 C では、切除部 2 2 6 の終端部 2 2 6 b において切除部 2 2 6 と残余部 2 2 7 の内シート 2 4 0 とが連結されていることにより、切除部 2 2 6 を切除する手の動きを利用して、おにぎり 1 0 0 とシート状食品 2 6 0 との間にある残余部 2 2 7 の内シート 2 4 0 を引き出し可能となる。また、第一の実施形態の包装おにぎり 1 0、第二の実施形態の包装おにぎり 1 0 A に比して、切除部 2 2 6 が小さくなるので、引っ張り出す動作領域を小さくすることができる。

【0 1 2 7】

また、包装体 2 2 0 は、おにぎり 1 0 0 を内包した状態において、内シート 2 4 0 と外シート 2 3 0 とが重ね合わされて接着された接着部 2 2 1、2 2 2 を有し、包装体 2 2 0 には、切除部 2 2 6 が切除されるときに、内シート 2 4 0 と外シート 2 3 0 との接着部分を剥離可能な剥離手段 2 2 3、2 2 4 が配設されている構成としているので、内シート 2 4 0 を容易に引き抜くことができる。

【0 1 2 8】

上記の第四の実施形態の包装おにぎり 1 0 C の変形例を図面に基づいて説明する。以下の説明において、第四の実施形態と同じ構成については、同一符号を付し全部又は一部の説明を省略する。

【0 1 2 9】

包装おにぎり 1 0 C 1 では、外シート 2 3 0 が、図 3 5 の二点鎖線で参照するように、開口縁部に沿うように易開封性を有する。そして、側壁部 2 3 3 の上部の前後方向における中央部には、図 3 5 に示すように、左斜め上側に突出するリブ 2 3 6 が配設されている。リブ 2 3 6 は、左右方向からみて上下方向に沿って、側壁部 2 3 3 の上部とフランジ部 2 3 5 の下面側とを連結するように形成されている(方向については図 2 8 参照)。リブ 2 3 6 には、切り込み 2 3 6 a が形成されている。

【0 1 3 0】

そして、接着部形成片 2 4 3 b とフランジ部 2 3 5、接着部形成片 2 4 8 c とフランジ部 2 3 5、が接着される部分の接着力は、接着部形成片 2 4 3 b、接着部形成片 2 4 8 c と開封シート 2 7 0 が接着される部分の接着力と同等とする。

【0 1 3 1】

換言すれば、開封シート 2 7 0 で開封するとき、外シート 2 3 0 のフランジ部 2 3 5 と、内シート 2 4 0 (接着部形成片 2 4 3 b、接着部形成片 2 4 8 c) と、開封シート 2 7 0 と、の接着部分が一体となって分離される状態とする。

【0 1 3 2】

本変形例においても、フランジ部 2 3 5 と接着部形成片 2 4 8 c との接着部分、フランジ部 2 3 5 と接着部形成片 2 4 3 b との接着部分、がそれぞれ接着部 2 2 1、接着部 2 2 2 となる。

【0133】

図 3 5、3 6 に示すように、リブ 2 3 6 と、切り込み 2 3 6 a と、開口縁部に沿って開封性を有する外シート 2 3 0 とで、切除部 2 2 8 が切除されるときに、接着部 2 2 1、2 2 2 から包装体 2 2 0 の切除部 2 2 8 以外の部位（残余部 2 2 9）を構成する内シート 2 4 0 及び外シート 2 3 0 が分離可能とされる分離手段 2 2 5 が構成される。なお、外シート 2 3 0 に付された二点鎖線は、外シート 2 3 0 の切断予定線で、分離手段 2 2 5 の理解を容易にするためのものである。また、本変形例は、第四の実施形態の変形例であるが、分離手段 2 2 5 は、出願当初の特許請求の範囲における請求項 2 の分離手段に相当する。

10

【0134】

包装おにぎり 1 0 C 1 の機能作用を説明する。掴み片 2 7 1 と、接着部形成片 2 4 8 c とが接着された部分を手で持ち、図 3 5 の状態から、開封シート 2 7 0 を接着部形成片 2 4 3 b 側に引っ張ると、一体化しているフランジ部 2 3 5 も引き上げられ、切り込み 2 3 6 a から、リブ 2 3 6 が側壁部 2 3 3 に向かって切れ、さらに側壁部 2 3 3 との境界部分から、側壁部 2 3 3 の前後方向にそれぞれ別れて切れていく（図 3 5 の丸内参照）。

【0135】

そして、外シート 2 3 0 は開口縁部に沿うように易開封性を有することから、図 3 6 に示すように、符号 2 2 5 が付された二点鎖線に沿って、三角壁部 2 3 1、2 3 2 の斜め下側に（フランジ部 2 3 5 と略平行となるように）切れていく。さらに、側壁部 2 3 4 の前後の端部から中央に向かってそれぞれ切れていき合流する。換言すれば、フランジ部 2 3 5 と略平行に輪切り状となるように、三角壁部 2 3 1、2 3 2、側壁部 2 3 3、2 3 4 が切り離されていくことになる。

20

【0136】

なお、切り離される過程における、開封シート 2 7 0、壁形成シート 2 4 8、側壁形成片部 2 4 4、側壁形成片部 2 4 5、の機能作用、フランジ形成片 2 4 6、2 4 7、フランジ部 2 3 5、開封シート 2 7 0 の機能作用は、図 3 3 に示す包装おにぎり 1 0 C と同様であるので説明は省略する。

【0137】

本実施形態では、図 3 6 に示すように、包装おにぎり 1 0 C 1 の包装体 2 2 0 の符号 2 2 5 が付された二点鎖線を境界として、右側の部分を構成する、外シート 2 3 0 の三角壁部 2 3 1、2 3 2、側壁部 2 3 3、2 3 4、フランジ部 2 3 5、開封シート 2 7 0、壁形成シート 2 4 8、が切除部 2 2 8 となり、包装おにぎり 1 0 C 1 の包装体 2 2 0 の符号 2 2 5 が付された二点鎖線を境界として、左側の残りの部分が残余部 2 2 9 となる。つまり、包装体 2 2 0 において、切除部 2 2 8 は、掴み片 2 7 1 側に始端部 2 2 8 a が設けられ、連結片 2 7 2 側に終端部 2 2 8 b が設けられていることになる。

30

【0138】

さらに、切除部 2 2 8 を分離していくと、図 3 7 に示すように、連結片 2 7 2 と、接着部形成片 2 4 3 b が接着されて連結されていることにより、内シート 2 4 0 を引っ張り出すことが可能となる。

40

【0139】

内シート 2 4 0 を引っ張り出すと、外シート 2 3 0（残余部 2 2 9 側の）が残り、手を汚さずに、海苔 2 6 1、2 6 5 に覆われたおにぎり 1 0 0 を得ることができる。

【0140】

このような構成によっても、包装体 2 2 0 の切除部 2 2 8 以外の部位を構成する内シート 2 4 0 及び外シート 2 3 0 に接着部 2 2 1、2 2 2 が含まれないようになるので、内シート 2 4 0 を容易に引き抜くことができることにつながる。よって、手を汚すことなく、包装おにぎり 1 0 C 1 を開封して食べることが可能となる。

【0141】

50

本発明の包装おにぎりは上記第一～四の実施形態、及び、第四の実施形態の変形例に限定されるものではない。即ち、第一～四の実施形態、及び、第四の実施形態の変形例に現わされた発明の要旨を逸脱しない限り各種の設計変更等が可能である。

【0142】

例えば、切り込み26、26A（図3、図12参照）は、接着してから形成したが、予め、外シート30、30A、内シート40、40Aの対応する位置に切り込みを形成してから接着することも可能である。

【0143】

また、誘導孔29A（図12参照）も接着してから形成したが、予め、外シート30Aの対応する位置に孔を形成してから接着することも可能である。

10

【0144】

また、海苔161の側壁部143、144、146、147と重なる部分の短手方向の幅は、適宜変更することができる（図18、図19参照）。それに対応して、位置決めシート148、149の接着部位148a、149aの位置を適宜変更することも可能である。

【0145】

また、海苔261の側壁部263、264、海苔265の側壁部267、268の短手方向の幅は、シート状食品260の側壁部分を形成できるのであれば適宜変更することができる（図29参照）。

【0146】

20

また、図29の二点鎖線に示すように、例えば、図28の状態のシート状食品260の開口部分を覆うように、三角壁部262から台形状の覆い部分を延設することも可能である。また、覆い部分を三角壁部266から延設することも可能であり、さらに、三角壁部262及び三角壁部266から延設させることも可能である。

【0147】

また、包装おにぎり10、10B、10C1を、開封切除するときに切る方向を誘導、補助する手段として、カットテープ31、カットテープ41、カットテープ138等を用いたが（図3、図12、図24参照）、当該機能を有するのであれば、ミシン目、カットライン等既存の技術を用いることができる。

【0148】

30

また、外シート30、130、内シート40、140に設けられた分離手段としてのミシン目32、42、139、150を用いたが（図1、図18参照）、当該機能を有するのであれば、カットライン等の既存の分離手段を用いることができる。

【0149】

また、包装おにぎり10において、幅広接着部24（図3参照）を設けなくて、外シート30、内シート40に直接切り込みを設け、外シート30、内シート40を切り離すこともできる。さらに、包装おにぎり10Aのように、連結ブリッジ43A（図12、図16参照）を、内シート40の内側に配設し、切り離される切除部27と残余部28に残る内シート40とを架け渡すようにすることも可能である。この場合、ミシン目32、42（図1参照）を省略することができる。

40

【0150】

また、シート状食品50、160、260（図1、図9、図18、図29参照）は、海苔51、161、261、265としたが、うす焼卵、薄切り焼き肉等シート状の食品を適用することができる。

【0151】

また、包装おにぎり10Bにおいて、接着片145a（図18、図19参照）を設けずに接着片133aと接着片134aとを接着するとともに、接着片133bと接着片145bを接着しないで、接着片145bと接着片135aのみを接着することも可能である。この場合、接着部124に対応する部分と内シート140の側壁部145、接着部125に対応する部分と外シート130の側壁部133、が接着されないことになるので、ミ

50

シン目 139、150 を省略することができる。

【0152】

また、包装おにぎり 10C において（図 31 参照）、接着部形成片 248c と掴み片 271 のフランジ部 235 より突出する部分、接着部形成片 243b と連結片 272 のフランジ部 235 より突出する部分、のみが、接着力がフランジ部 235 と開封シート 270 が接着される部分の接着力より強固なものとする 것도可能である。

【0153】

また、包装おにぎり 10C1 において（図 35、図 36 参照）、外シート 230 の切除部 228 となる部分と、残余部 229 となる部分とを別体で構成し、境界部分を重ね合わせて接着することで切り離し可能とする 것도できる。

10

【符号の説明】

【0154】

10 包装おにぎり

10A 包装おにぎり

10B 包装おにぎり

10C 包装おにぎり

10C1 包装おにぎり

20 包装体

23 接着部

27 切除部

20

27a 始端部

27b 終端部

28 残余部

20A 包装体

21A 誘導手段

22A 誘導手段

23A 接着部

25Aa 二重接着部

26A 切り込み

27A 切除部

30

27Aa 始端部

27Ab 終端部

28A 残余部

29A 誘導孔

30 外シート

32 ミシン目

30A 外シート

40 内シート

42 ミシン目

40A 内シート

40

43A 連結ブリッジ

50 シート状食品

51 海苔

100 おにぎり

120 包装体

124 接着部

125 接着部

126 切除部

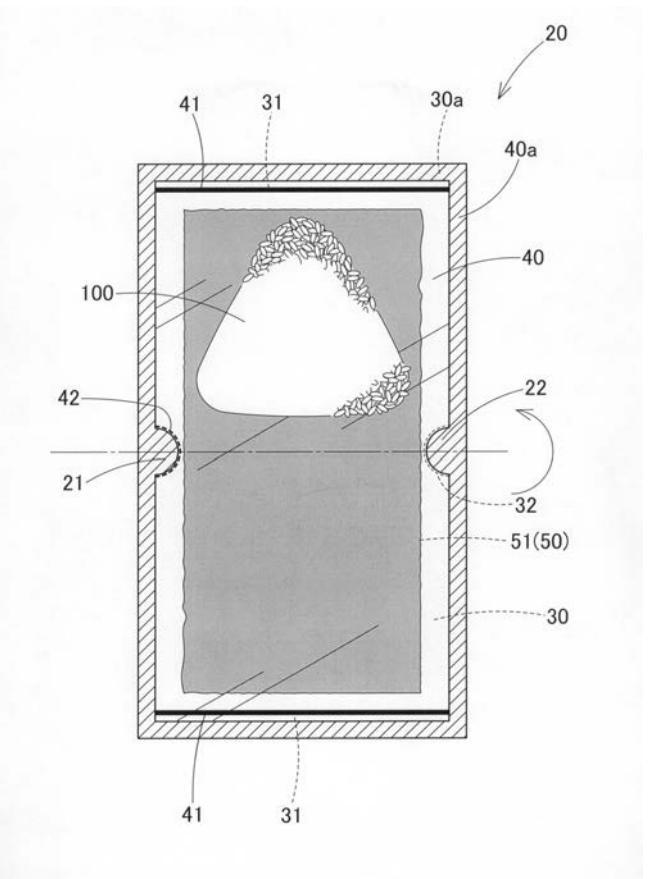
126a 始端部

126b 終端部

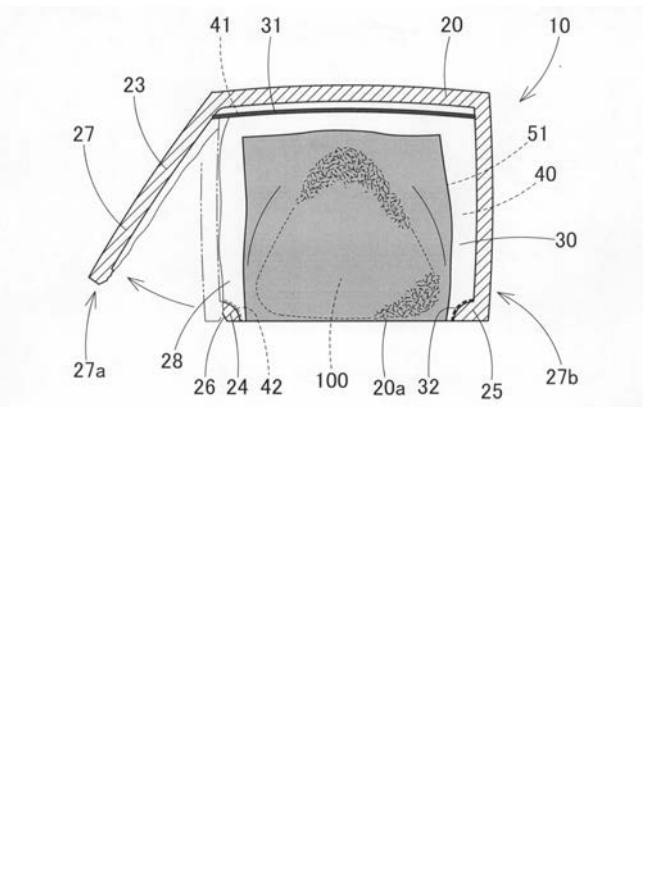
50

1 2 7	残余部	
1 3 0	外シート	
1 3 9	ミシン目	
1 4 0	内シート	
1 4 1	三角壁部	
1 5 0	ミシン目	
1 6 0	シート状食品	
1 6 1	海苔	
2 2 0	包装体	
2 2 1	接着部	10
2 2 2	接着部	
2 2 3	剥離手段	
2 2 4	剥離手段	
2 2 6	切除部	
2 2 5	分離手段	
2 2 6 a	始端部	
2 2 6 b	終端部	
2 2 7	残余部	
2 2 8	切除部	
2 2 8 a	始端部	20
2 2 8 b	終端部	
2 2 9	残余部	
2 3 0	外シート	
2 3 6 a	切り込み	
2 6 0	シート状食品	
2 6 1	海苔	
2 7 0	開封シート	

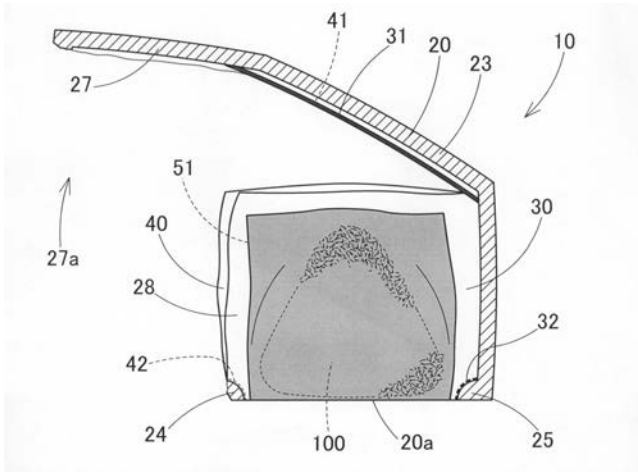
【 図 2 】



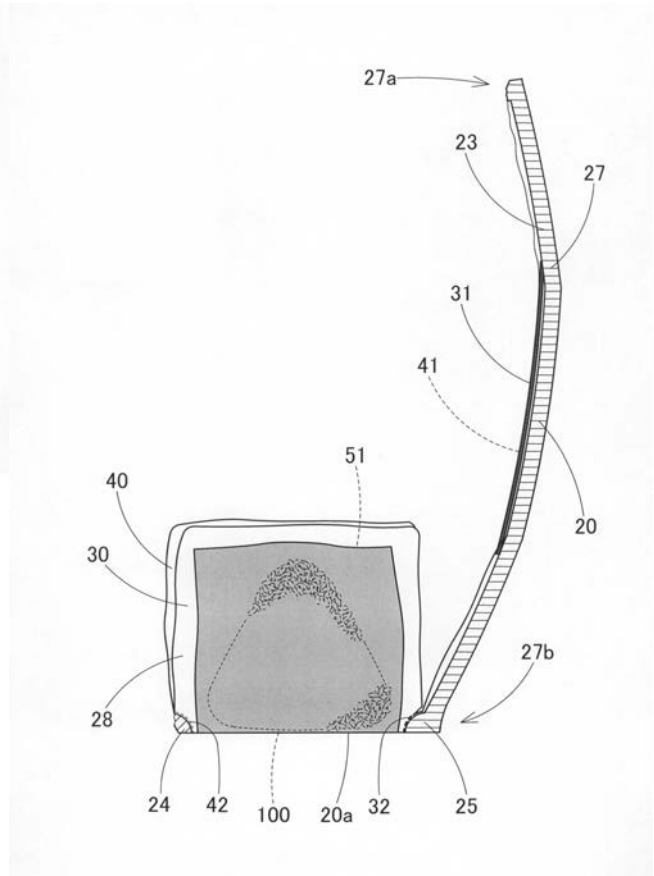
【 図 4 】



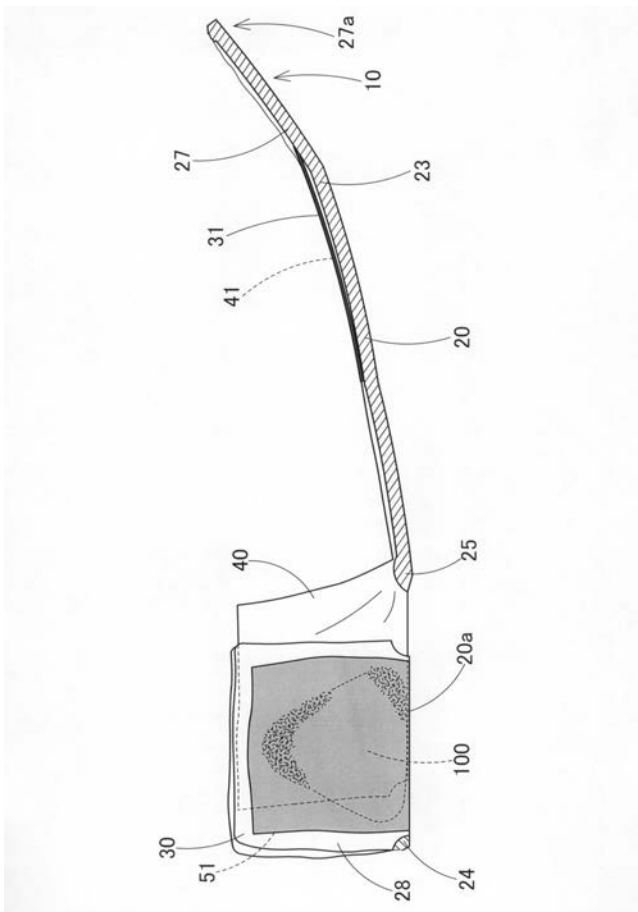
【図 5】



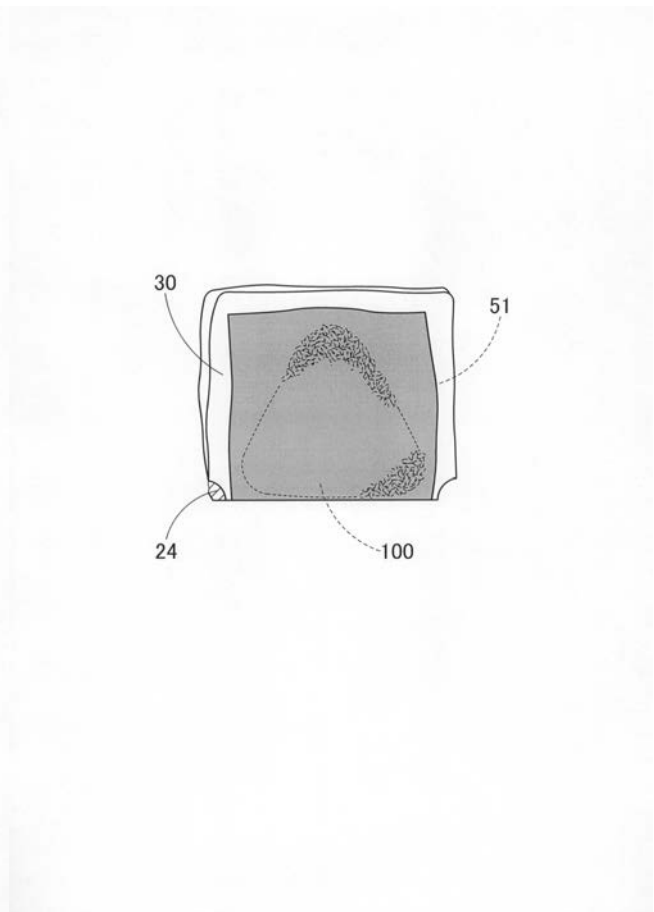
【図 6】



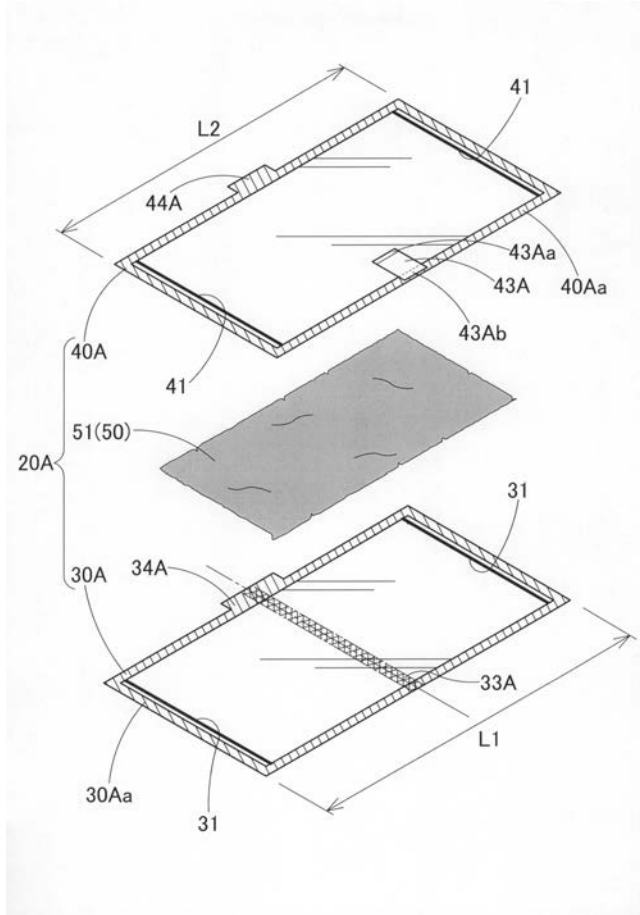
【図 7】



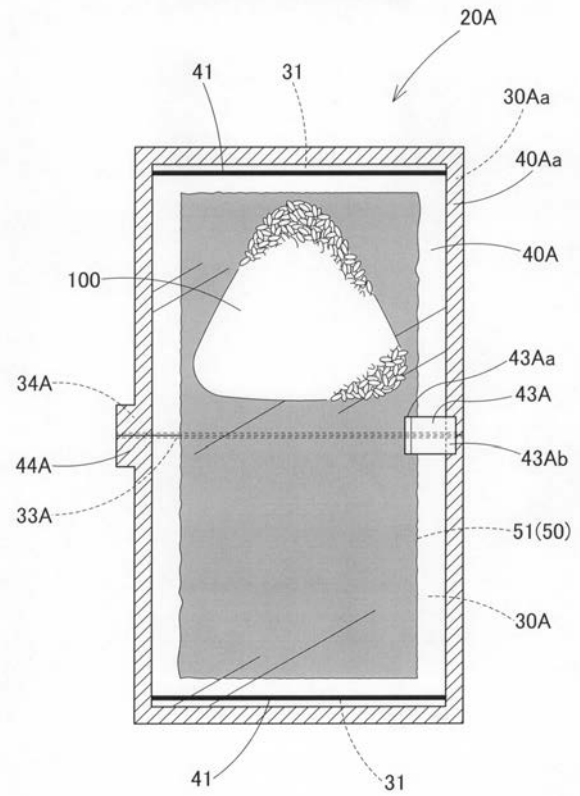
【図 8】



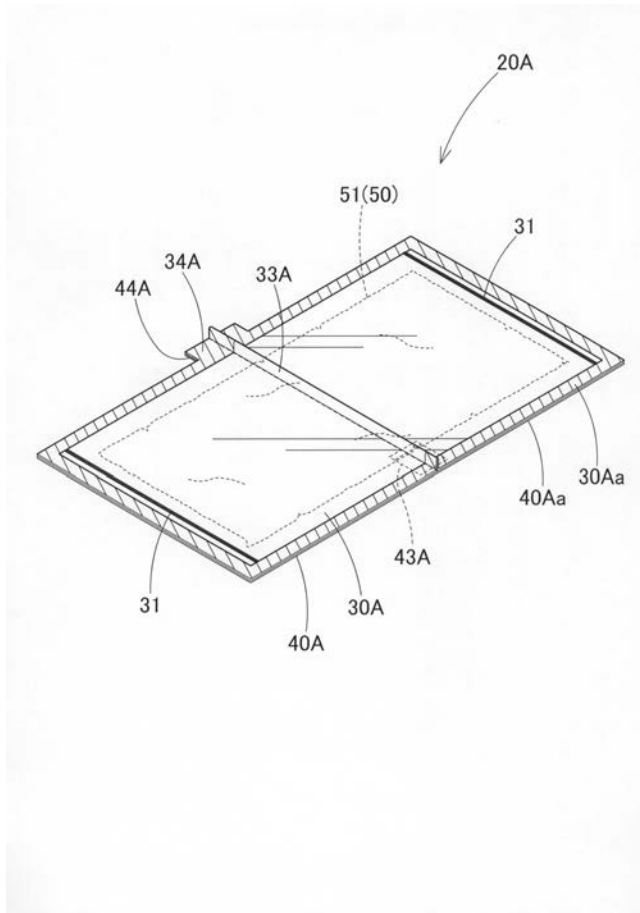
【図 9】



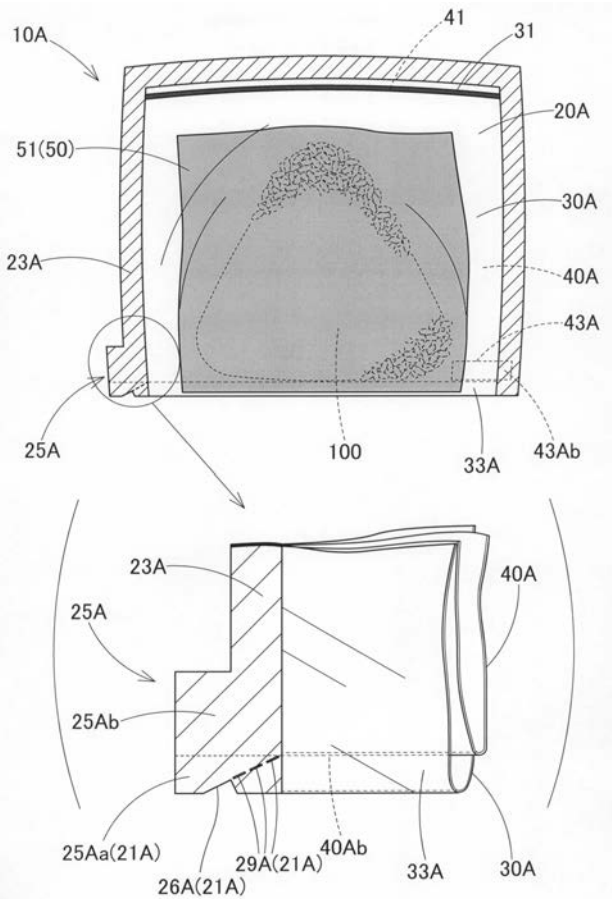
【図 10】



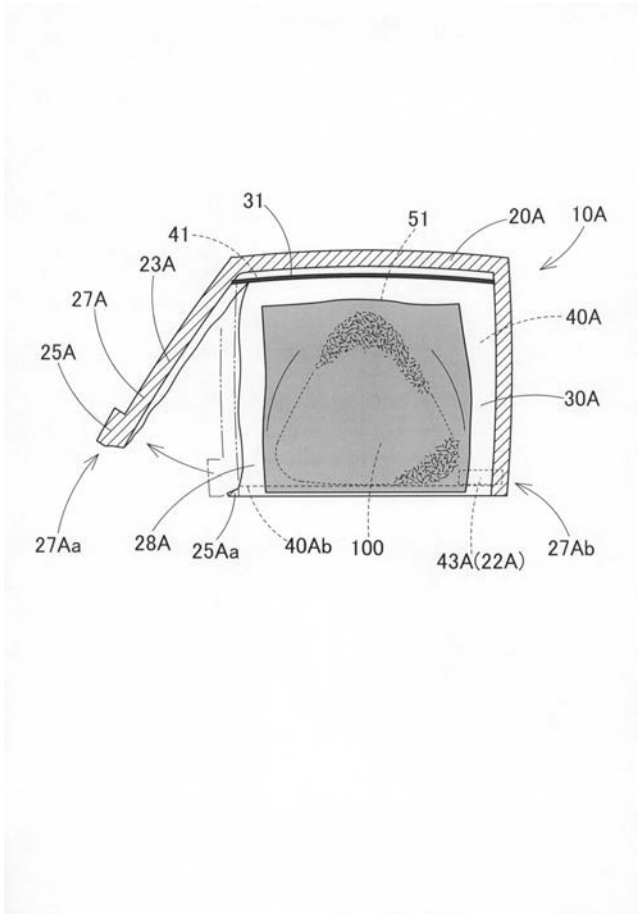
【図 11】



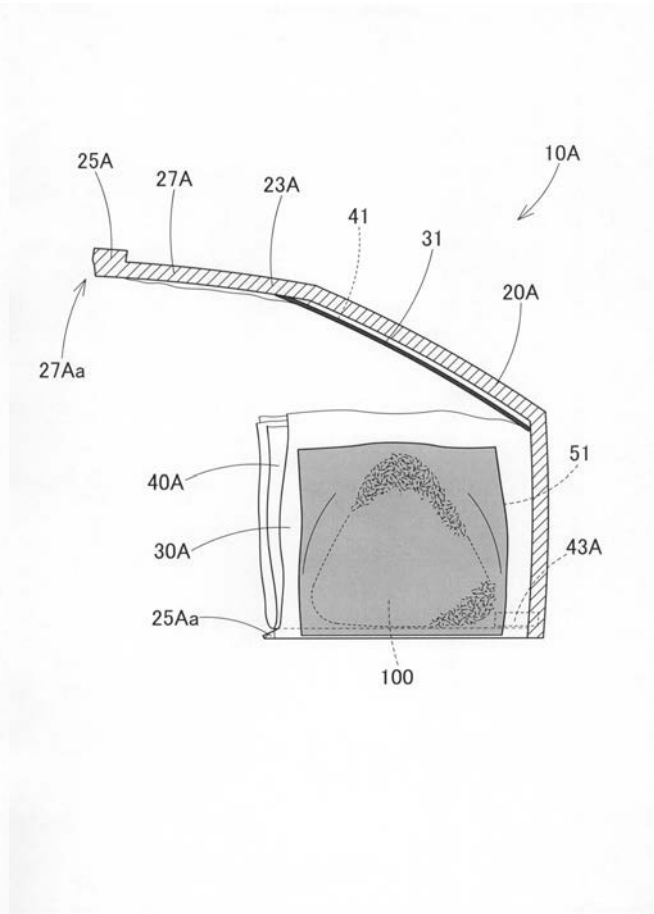
【図 12】



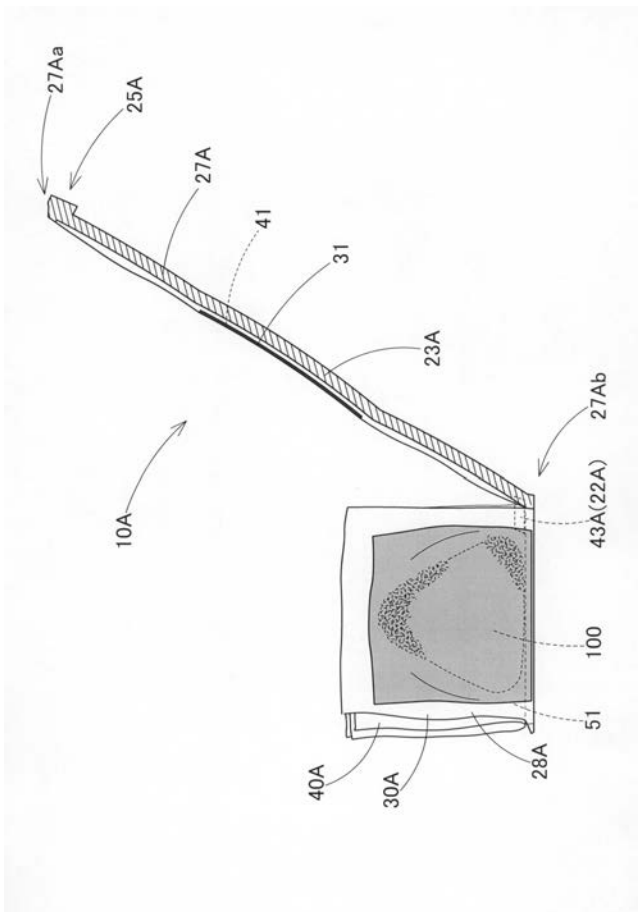
【図 13】



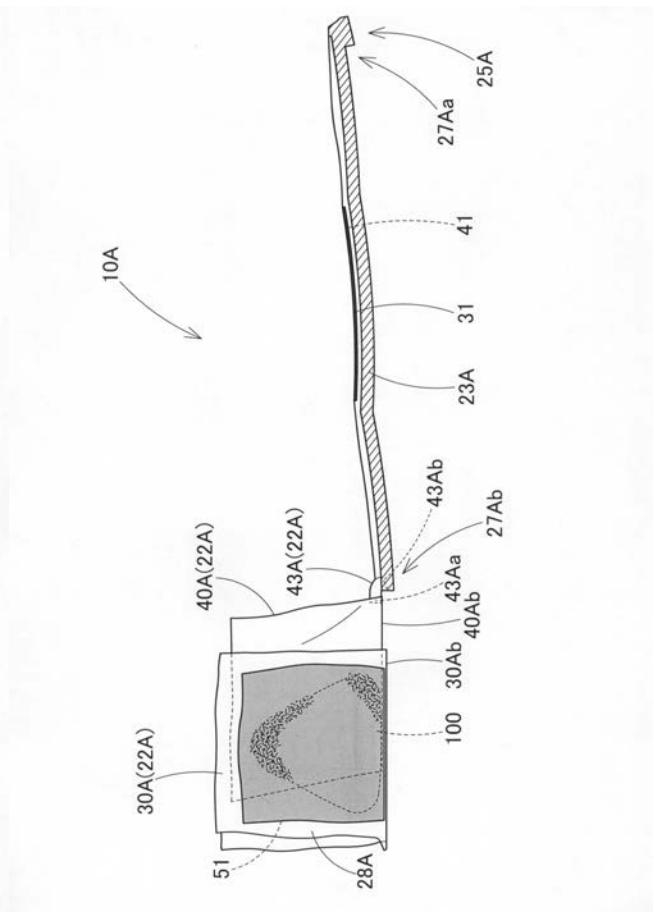
【図 14】



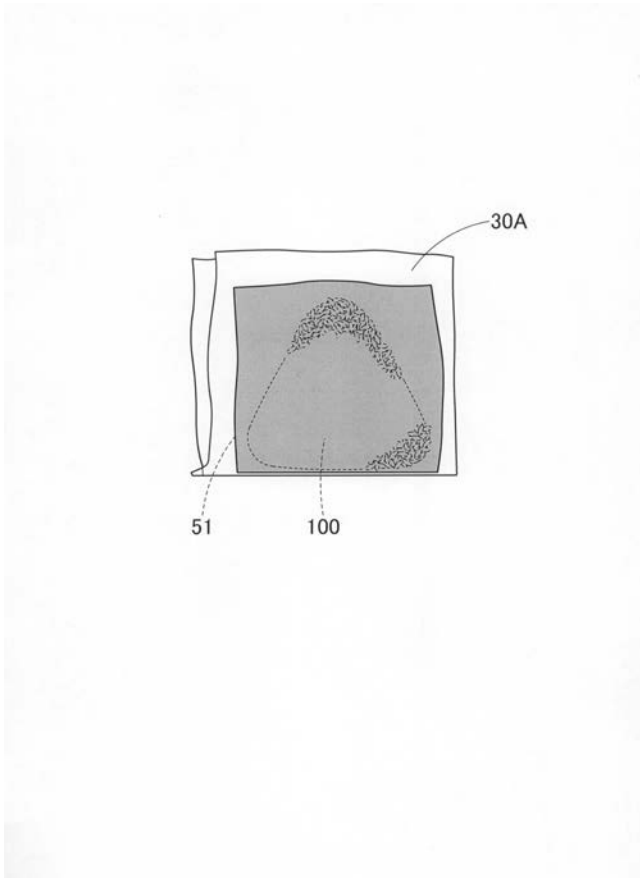
【図 15】



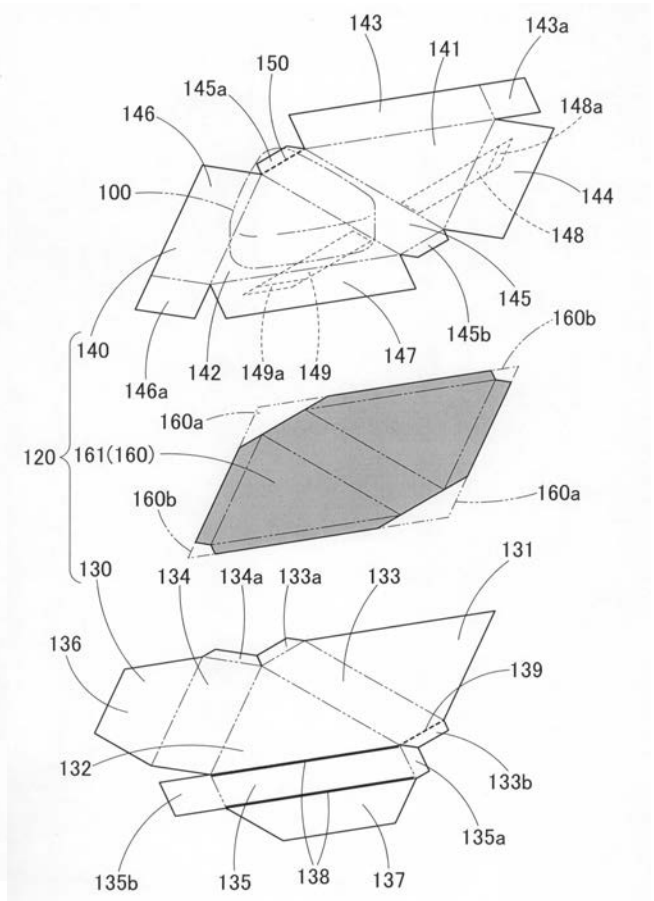
【図 16】



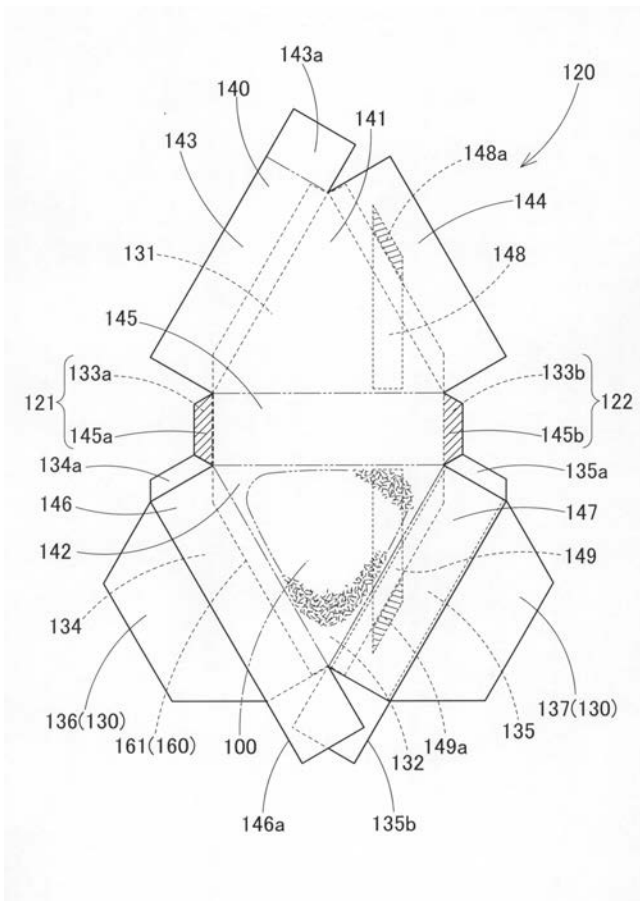
【図 17】



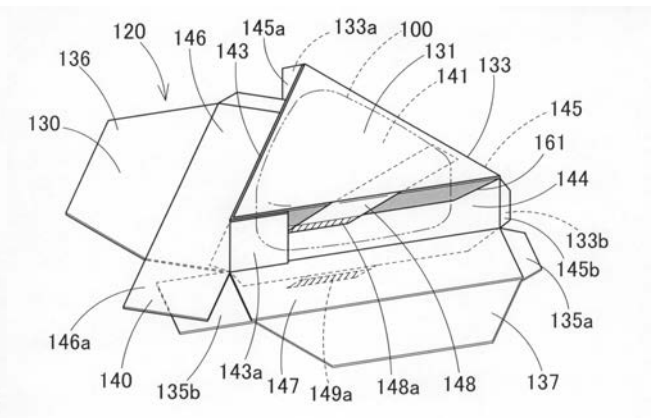
【図 18】



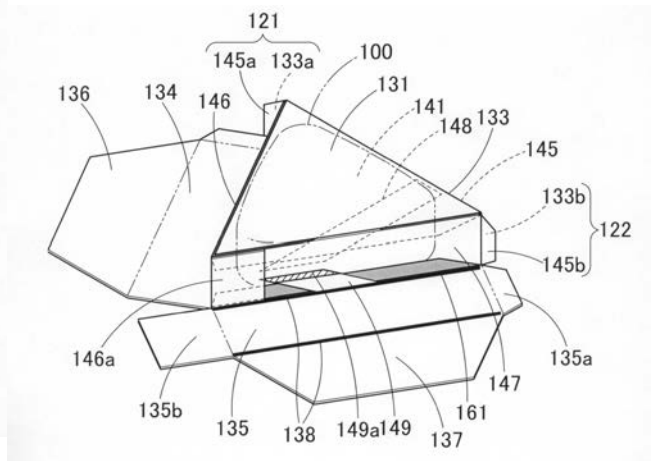
【図 19】



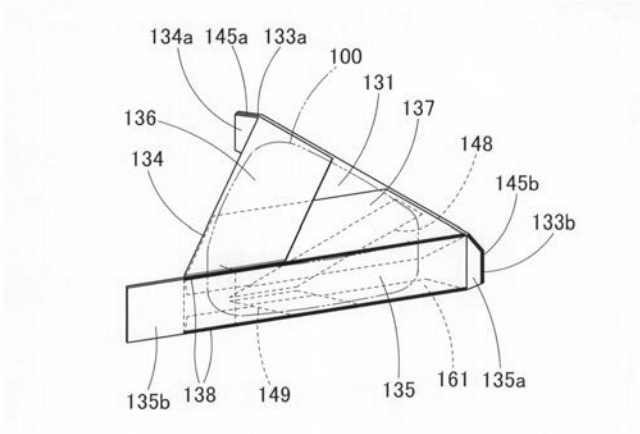
【図 20】



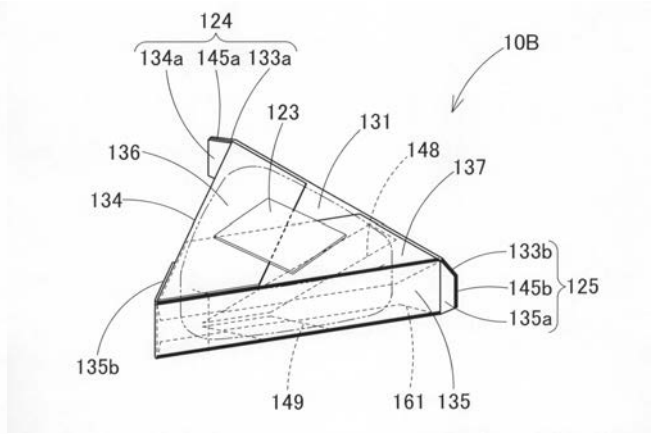
【図 21】



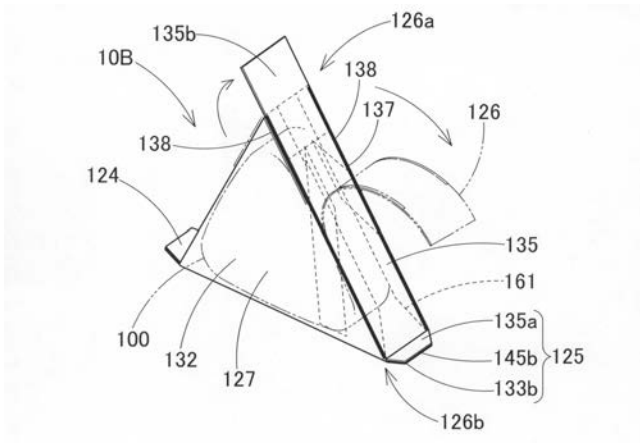
【図 2 2】



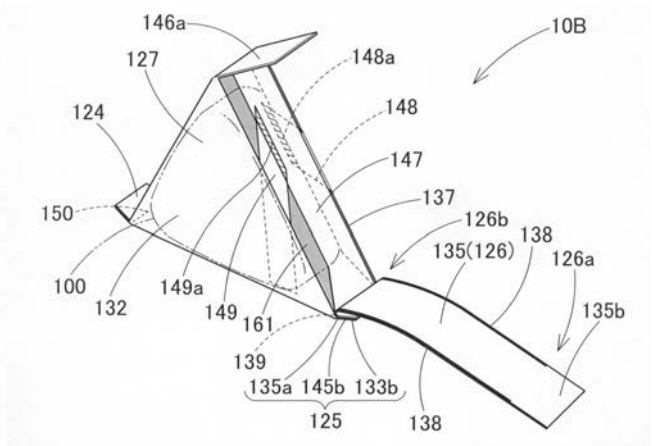
【図 2 3】



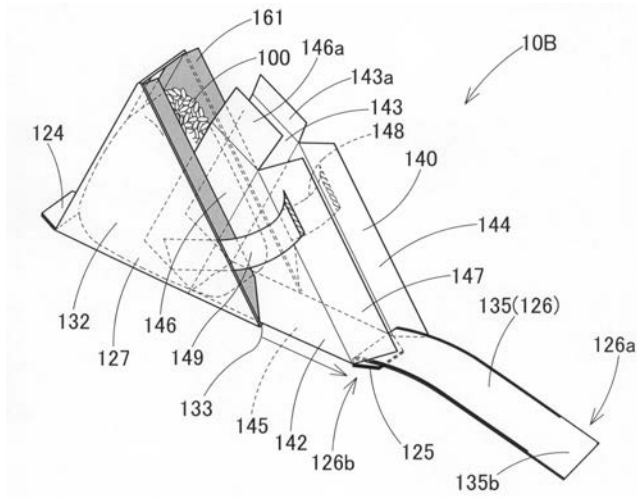
【図 2 4】



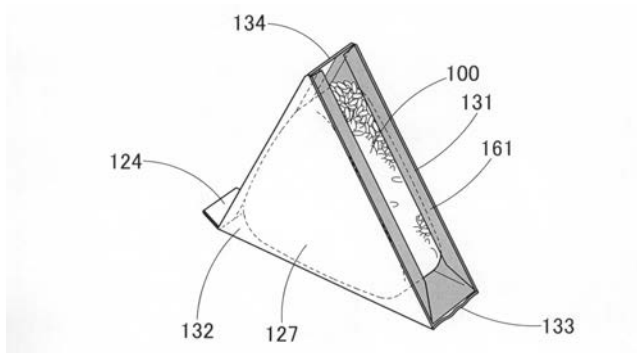
【図 2 5】



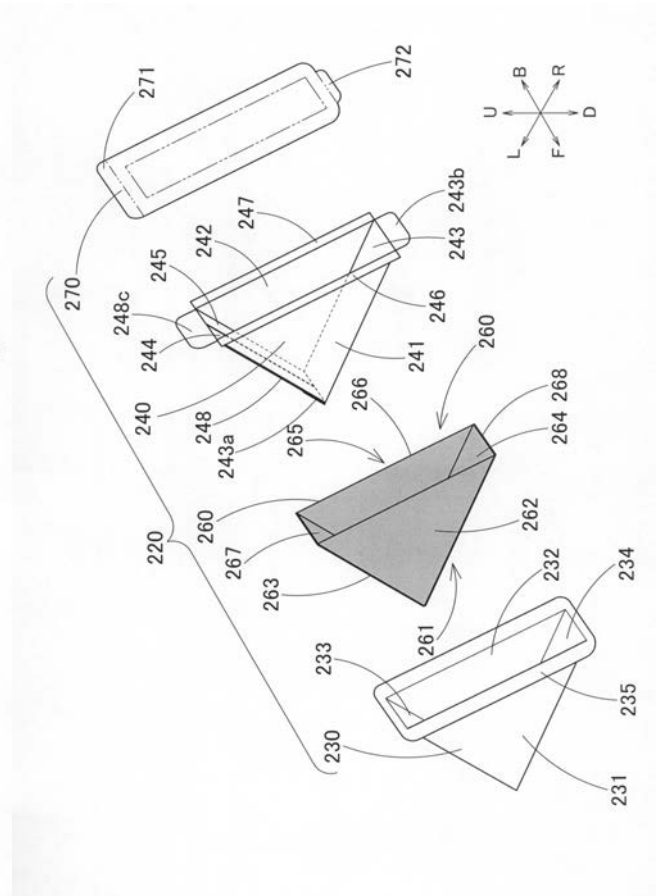
【図 26】



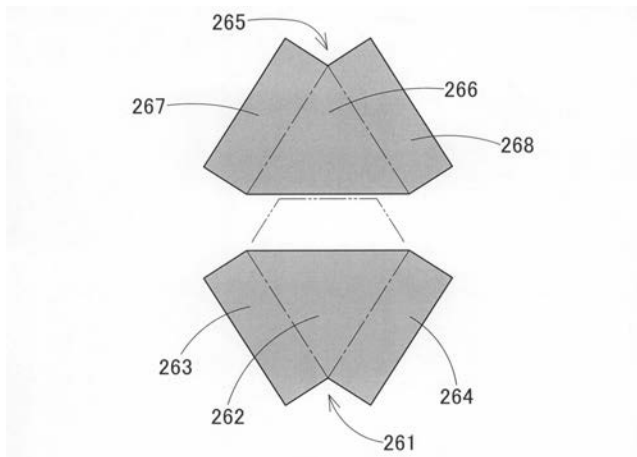
【図 27】



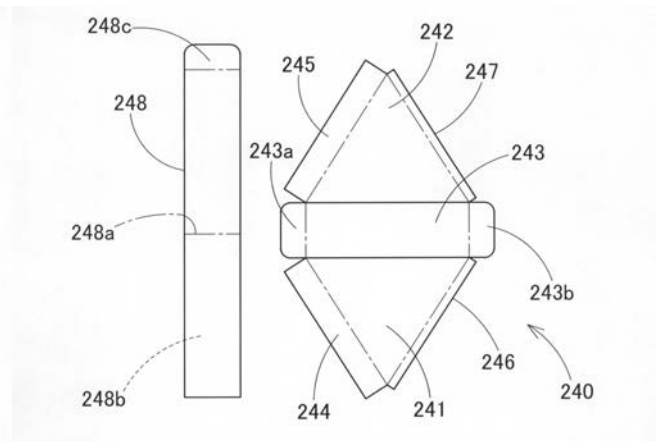
【図 28】



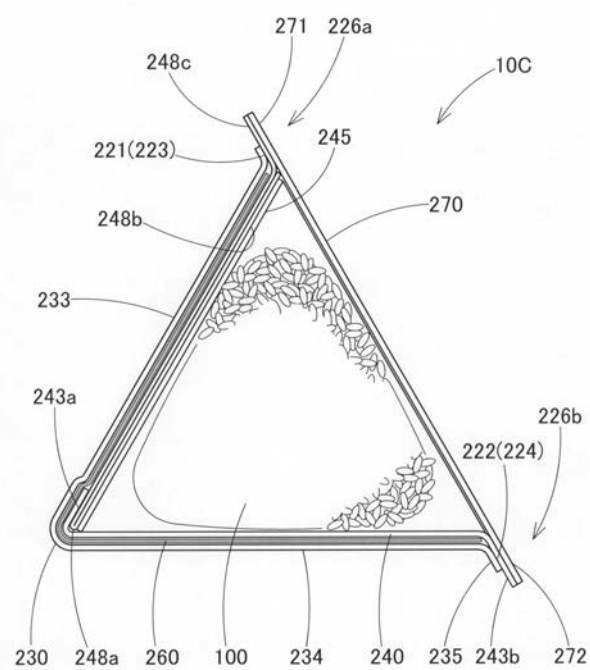
【図 29】



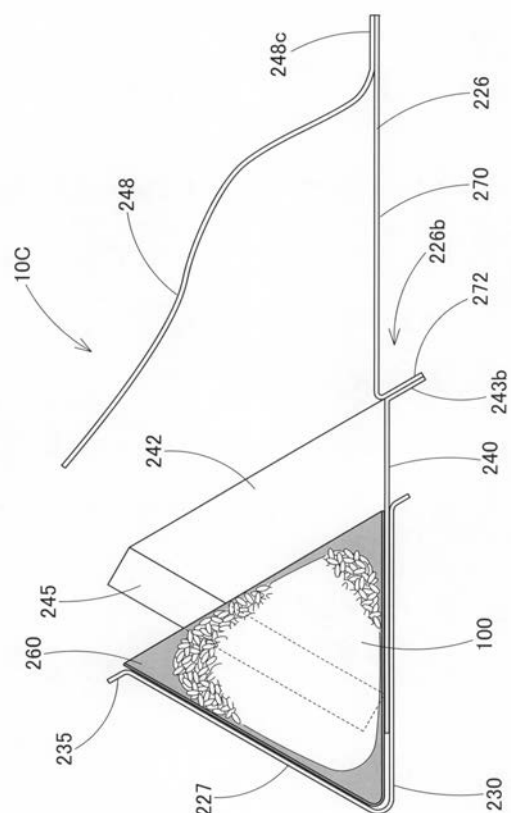
【図 30】



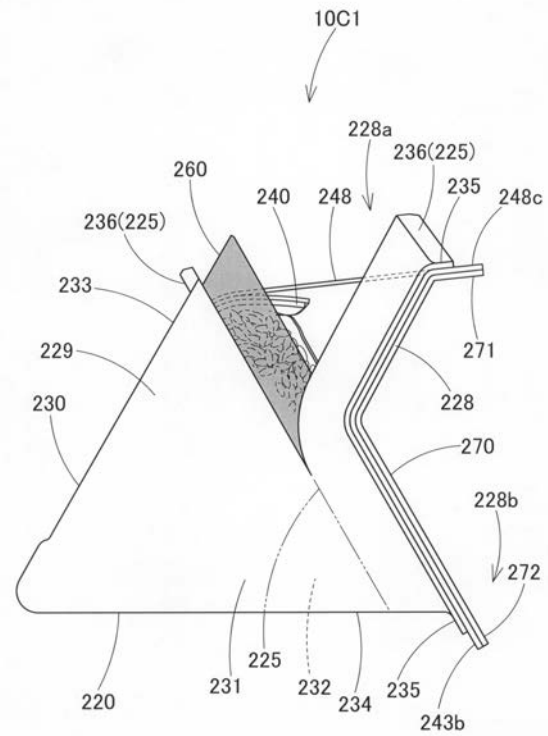
【図 3 2】



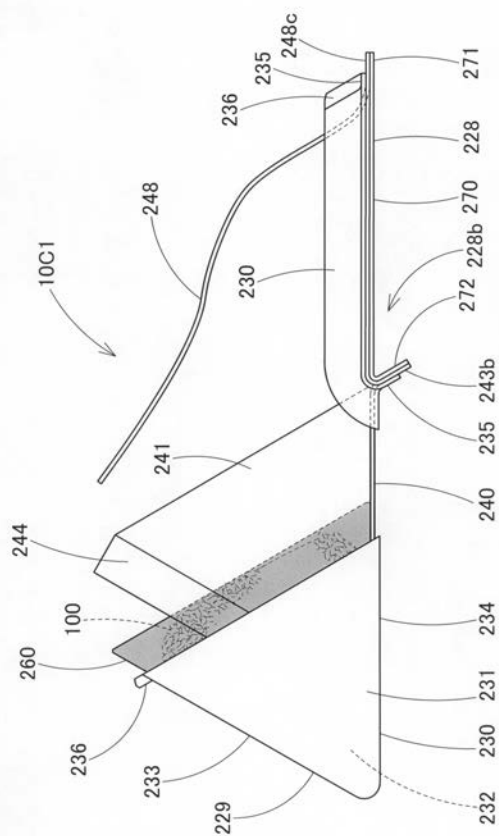
【図 3 4】



【 図 3 6 】



【図 37】



【手続補正書】

【提出日】平成28年7月13日(2016.7.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

内シートと外シートと前記内シートと前記外シートに挟まれて配置されるシート状食品とが積層状態で構成される包装体が、前記内シートの内側でおにぎりを内包する包装おにぎりであって、

前記シート状食品は、前記外シート及び前記内シートで仕切られた空間内に配置された密封状態にあり、

前記包装体は、折り重ねられた状態で前記おにぎりを内包し、前記内シートと前記外シートとが重ね合わされて接着された接着部を有し、

前記接着部が、折り重ねられた前記内シートと前記外シートの外周縁部に形成され、

前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、切除される切除部を備え、

前記切除部は、前記包装体の折り重ねられた折り曲げ部位の外周縁部の一端に形成された接着部の切り込みを始端にして、前記折り曲げ部位の外周縁部の他端を終端として形成され、

前記おにぎりと前記シート状食品との間に位置する前記内シートと、前記切除部の終端部とが連結され、

前記切除部が切除されるときに、前記接着部から、前記包装体の前記切除部以外の部位を構成する前記内シート及び前記外シートが分離可能とされる分離手段が配設され、

前記切除部が切除されるときに、前記おにぎりと前記シート状食品との間に位置する前記内シートを引出し可能とされていることを特徴とする包装おにぎり。

【請求項2】

内シートと外シートと前記内シートと前記外シートに挟まれて配置されるシート状食品とが積層状態で構成される包装体が、前記内シートの内側でおにぎりを内包する包装おにぎりであって、

前記シート状食品は、前記外シート及び前記内シートで仕切られた空間内に配置された密封状態にあり、

前記包装体は、前記包装袋の折り重ねられた状態で前記おにぎりを内包し、前記内シートと前記外シートとが重ね合わされて接着された接着部を有し、

前記接着部が、前記包装体の折り重ねられた前記内シートと前記外シートの外周縁部に形成されるとともに、前記包装体の折り重ねられた折り曲げ部位の両端における外周縁部には、外周縁部にある前記外シートどうしのみが接着された接着部が形成され、

前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、切除される切除部を備え、

前記おにぎりと前記シート状食品との間に位置する前記内シートと、前記切除部の終端部とが、前記折り曲げ部位に沿った方向の両端で接着する連結ブリッジで連結され、

さらに、前記包装体は、前記切除部が切除されるときに、前記包装体の前記切除部以外の部位を構成する前記内シート及び前記外シートに前記接着部が含まれないように誘導する誘導手段を備え、

前記誘導手段が、前記切除部の切り始め時に、前記切除部が前記折り曲げ部位の一方の外周縁部の接着部から前記外周縁部の前記外シートどうしのみが接着された接着部における接着されていない残余部の境界部分に向かって切除されるように構成されるとともに、前記切除部の切り終り時に、前記切除部が、前記切除部の終端において前記連結ブリッジにおける前記内シートの接着部位と前記切除部の接着部位との間を通るように切除可能に構成されていることを特徴とする包装おにぎり。

【請求項 3】

三角柱形状の一面が開口されて中空状の三角柱形状に形成された内シートと、三角柱形状の一面が開口されて中空状の三角柱形状に形成された外シートと、前記内シートと前記外シートに挟まれて配置されたシート状食品と、が積層状態で構成されるとともに、前記外シート及び前記内シートの開口部を覆う開封シートを有する包装体が、前記内シートの内側でおにぎりを内包する包装おにぎりであって、

前記外シートは、開口された一面の部位において、開口部端縁部から外側四方に向かって延設されるフランジ部が形成され、

前記内シートは、三角形状の一对の三角壁部と、前記一对の三角壁部を連結する側壁部と、前記一对の三角壁部から折り曲げられた側壁形成部に重ね合わされる壁形成シートと、を有して構成され、前記側壁部の一端には、前記開封シート及び前記外シートのフランジ部の一端に接着可能な接着部形成片を有し、前記壁形成シートの一端には、前記開封シート及び前記外シートのフランジ部の一端に接着可能な接着部形成片を有し、

前記開封シートと前記外シートの四方のフランジ部が接着して配置されるとともに、前記内シートの側壁部の接着部形成片と前記開封シートの一端及び前記外シートの一方のフランジ部が接着され、前記壁形成シートの接着部形成片と前記開封シートの他端及び前記外シートの前記一方のフランジ部と対向する他方のフランジ部が接着され、前記内シートの壁形成シートと前記内シートの側壁形成部が接着され、さらに、前記開封シートが前記外シートと前記内シートの開口部を覆うように前記フランジ部に重ね合わされることにより、前記シート状食品は、前記外シート及び前記内シートで仕切られた空間内に配置された密封状態にあり、

前記開封シートと前記内シートの側壁部の接着部形成片及び前記開封シートと前記内シートの壁形成シートの接着部形成片の接着力は、前記外シートのフランジ部と前記内シートの側壁部の接着部形成片、前記外シートのフランジ部と前記内シートの壁形成シートの接着部形成片との接着力より強固となるように構成され、

前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、切除される切除部を有し、

前記おにぎりとは前記シート状食品との間に位置する前記内シートと、前記切除部の終端部とが連結され、

前記包装体は、前記切除部が切除されるときに、前記外シートのフランジ部と前記内シートの接着部分が剥がれ、前記内シートと前記開封シートの接着部分が剥がれない状態となることにより前記おにぎりとは前記シート状食品との間に位置する前記内シートを引出し可能とされていることを特徴とする包装おにぎり。

【請求項 4】

三角柱形状の一面が開口されて中空状の三角柱形状に形成された内シートと、三角柱形状の一面が開口されて中空状の三角柱形状に形成された外シートと、前記内シートと前記外シートに挟まれて配置されたシート状食品と、が積層状態で構成されるとともに、前記外シート及び前記内シートの開口部を覆う開封シートを有する包装体が、前記内シートの内側でおにぎりを内包する包装おにぎりであって、

前記外シートは、開口された一面の部位において、開口部端縁部から外側四方に向かって延設されるフランジ部が形成され、

前記内シートは、三角形状の一对の三角壁部と、前記一对の三角壁部を連結する側壁部と、前記一对の三角壁部から折り曲げられた側壁形成部に重ね合わされる壁形成シートと、を有して構成され、前記側壁部の一端には、前記開封シート及び前記外シートのフランジ部の一端に接着可能な接着部形成片を有し、前記壁形成シートの一端には、前記開封シート及び前記外シートのフランジ部の一端に接着可能な接着部形成片を有し、

前記開封シートと前記外シートの四方のフランジ部が接着して配置されるとともに、前記内シートの側壁部の接着部形成片と前記開封シートの一端及び前記外シートの一方のフランジ部が接着され、前記壁形成シートの接着部形成片と前記開封シートの他端及び前記外シートの前記一方のフランジ部と対向する他方のフランジ部が接着され、前記内シートの壁形成シートと前記内シートの側壁形成部が接着され、さらに、前記開封シートが前記

外シートと前記内シートの開口部を覆うように前記フランジ部に重ね合わされることにより、前記シート状食品は、前記外シート及び前記内シートで仕切られた空間内に配置された密封状態にあり、

前記内シートの側壁部の壁形成シートに対応する前記外シートの側壁部の上部と前記外シートのフランジ部の下面側とを連結するように、前記外シートの側壁部の幅方向の中央部位に前記外シートの側壁部の長手方向に向かって延設するリブが配設されるとともに、前記リブの、前記フランジ部との接着される部位との離隔された位置において、前記外シートの三角壁部に向かう方向に沿って切りこみが形成され、

前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、切除される切除部を有し、

前記切除部が、前記切り込みの延長線上にある前記外シートに向かって切除され、

前記おにぎりとは前記シート状食品との間に位置する前記内シートと、前記切除部の終端部とが連結され、

前記包装体は、前記切除部が前記切り込みから前記外シートの三角壁部を通して切除されるときに、前記内シートと前記外シートの接着部から、前記切除部以外の前記外シートと前記内シートを分離することにより前記内シートの前記おにぎりとは前記シート状食品との間に位置する前記内シートを引出し可能とされていることを特徴とする包装おにぎり。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、おにぎりとは海苔とを分離状態で包装する包装おにぎりに関する。

【背景技術】

【0002】

従来の包装おにぎりとして、特許文献 1 に記載されるものがあり、これによれば、矩形体フィルムの両短手辺部分を分離片とするミシン目を設け、他の外周縁部を接着代とした外フィルムの内側面上に海苔を重ね、さらにその内側面上の接着代より内方に位置し、かつ、短手辺部のみが上記分離片部分に重なるように内フィルムを重ね、その上で内フィルム上ににぎり飯を載せ、外フィルムを内フィルムと共に二つ折り状に折り返してにぎり飯の上に折り重ね、分離片部分とこの部分に重なった短手辺部とを熱融着等により接着し、接着代同士を熱融着等により接着して形成されていた。

【0003】

そして、分離手段によって外フィルムの分離片を分離すれば、この分離片と共に包被状態の外フィルムから内フィルムを引き抜くことができ、容易に海苔とにぎり飯を合体させて海苔巻きおにぎりを得ることができることとされていた。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開平 07-274870 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかし、上記特許文献 1 の包装おにぎりでは、外フィルムの分離片を分離する方向と、内フィルムを引き抜く方向とが直交しているので、分離片を持つ手を持ちかえる必要があり、引き抜き動作がしにくいという問題があった。

【0006】

本発明は上記事情に鑑みて、分離する部分（分離片）を手で分離した後、内シート（内

フィルム)をその手で抜く際に、その手を持ちかえることなく、より容易に引き抜くことができる包装おにぎりを提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

請求項1記載の発明では、内シートと外シートと前記内シートと前記外シートに挟まれて配置されるシート状食品とが積層状態で構成される包装体が、前記内シートの内側でおにぎりを内包する包装おにぎりであって、前記シート状食品は、前記外シート及び前記内シートで仕切られた空間内に配置された密封状態にあり、前記包装体は、折り重ねられた状態で前記おにぎりを内包し、前記内シートと前記外シートとが重ね合わされて接着された接着部を有し、前記接着部が、折り重ねられた前記内シートと前記外シートの外周縁部に形成され、前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、切除される切除部を備え、前記切除部は、前記包装体の折り重ねられた折り曲げ部位の外周縁部の一端に形成された接着部の切り込みを始端にして、前記折り曲げ部位の外周縁部の他端を終端として形成され、前記おにぎりと前記シート状食品との間に位置する前記内シートと、前記切除部の終端部とが連結され、前記切除部が切除されるときに、前記接着部から、前記包装体の前記切除部以外の部位を構成する前記内シート及び前記外シートが分離可能とされる分離手段が配設され、前記切除部が切除されるときに、前記おにぎりと前記シート状食品との間に位置する前記内シートを引出し可能とされていることを特徴とする。

【0008】

これによれば、切除部の終端部において切除部とおにぎりとシート状食品との間に位置する内シートとが連結されていることにより、切除部を切除する手の動きを利用して、おにぎりとシート状食品との間にある内シートを引き出し可能となる。よって、内シートを手で持ちかえることなく、より容易に引き抜くことができる。また、接着部から内シート、外シートが分離可能となるので、内シートを容易に引き抜くことができることにつながる。特に、包装体の密封性を確保するために、切除部の切り始めが接着部に設けられて、そのまま切除部を切除すると、包装体の切除部以外の部位に接着部が残ってしまう場合に、分離手段により、接着部から、内シート、外シートを分離可能となるので、内シートを確実に引き抜くことができる。さらに、前記接着部は、前記おにぎりを内包して折り畳まれた状態において、前記内シートと前記外シートの折り曲げられた部位外周縁部に形成されているから、シート状食品は外シートの外部及び内シートの内部からも密封された状態にあることになり、おにぎりを食する直前まで湿気によるシート状食品の品質の低下を防止することができる。

【0009】

またこの発明では、内シートと外シートと前記内シートと前記外シートに挟まれて配置されるシート状食品とが積層状態で構成される包装体が、前記内シートの内側でおにぎりを内包する包装おにぎりであって、前記シート状食品は、前記外シート及び前記内シートで仕切られた空間内に配置された密封状態にあり、前記包装体は、前記包装袋の折り重ねられた状態で前記おにぎりを内包し、前記内シートと前記外シートとが重ね合わされて接着された接着部を有し、前記接着部が、前記包装体の折り重ねられた前記内シートと前記外シートの外周縁部に形成されるとともに、前記包装体の折り重ねられた折り曲げ部位の両端における外周縁部には、外周縁部にある前記外シートどうしのみが接着された接着部が形成され、前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、切除される切除部を備え、前記おにぎりと前記シート状食品との間に位置する前記内シートと、前記切除部の終端部とが、前記折り曲げ部位に沿った方向の両端で接着する連結ブリッジで連結され、さらに、前記包装体は、前記切除部が切除されるときに、前記包装体の前記切除部以外の部位を構成する前記内シート及び前記外シートに前記接着部が含まれないように誘導する誘導手段を備え、前記誘導手段が、前記切除部の切り始め時に、前記切除部が前記折り曲げ部位の一方の外周縁部の接着部から前記外周縁部の前記外シートどうしのみが接着された接着部における接着されていない残余部の境界部分に向かって切除されるように構成されるとともに、前記切除部の切り終り時に、前記切除部が、前記切除部の終端において前

記連結ブリッジにおける前記内シートの接着部位と前記切除部の接着部位との間を通るように切除可能に構成されていることを特徴とする。

【0010】

これによれば、包装体の切除部以外の部位を構成する内シート及び外シートに接着部が含まれないようになるので、内シートを容易に引き抜くことができることにつながる。

【0011】

またこの発明は、三角柱形状の一面が開口されて中空状の三角柱形状に形成された内シートと、三角柱形状の一面が開口されて中空状の三角柱形状に形成された外シートと、前記内シートと前記外シートに挟まれて配置されたシート状食品と、が積層状態で構成されるとともに、前記外シート及び前記内シートの開口部を覆う開封シートを有する包装体が、前記内シートの内側でおにぎりを内包する包装おにぎりであって、前記外シートは、開口された一面の部位において、開口部端縁部から外側四方に向かって延設されるフランジ部が形成され、前記内シートは、三角形状の一对の三角壁部と、前記一对の三角壁部を連結する側壁部と、前記一对の三角壁部から折り曲げられた側壁形成部に重ね合わされる壁形成シートと、を有して構成され、前記側壁部の一端には、前記開封シート及び前記外シートのフランジ部の一端に接着可能な接着部形成片を有し、前記壁形成シートの一端には、前記開封シート及び前記外シートのフランジ部の一端に接着可能な接着部形成片を有し、前記開封シートと前記外シートの四方のフランジ部が接着して配置されるとともに、前記内シートの側壁部の接着部形成片と前記開封シートの一端及び前記外シートの一方のフランジ部が接着され、前記壁形成シートの接着部形成片と前記開封シートの他端及び前記外シートの前記一方のフランジ部と対向する他方のフランジ部が接着され、前記内シートの壁形成シートと前記内シートの側壁形成部が接着され、さらに、前記開封シートが前記外シートと前記内シートの開口部を覆うように前記フランジ部に重ね合わされることにより、前記シート状食品は、前記外シート及び前記内シートで仕切られた空間内に配置された密封状態にあり、前記開封シートと前記内シートの側壁部の接着部形成片及び前記開封シートと前記内シートの壁形成シートの接着部形成片の接着力は、前記外シートのフランジ部と前記内シートの側壁部の接着部形成片、前記外シートのフランジ部と前記内シートの壁形成シートの接着部形成片との接着力より強固となるように構成され、前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、切除される切除部を有し、前記おにぎりとは前記シート状食品との間に位置する前記内シートと、前記切除部の終端部とが連結され、前記包装体は、前記切除部が切除されるときに、前記外シートのフランジ部と前記内シートの接着部分が剥がれ、前記内シートと前記開封シートの接着部分が剥がれない状態となることにより前記おにぎりとは前記シート状食品との間に位置する前記内シートを引出し可能とされていることを特徴とする。

【0012】

これによれば、シート状食品が外シートと内シートとの間で仕切られた空間内に配置された密封状態において、切除部を切除する際、前記外シートのフランジ部と前記内シートの接着部分が剥がれて前記内シートと前記開封シートの接着部分が剥がれない状態となることにより、切除部で切除終了時に内シートを引き出すことができる。このため、おにぎりを食する直前までシート状食品を密封状態に維持することができてシート状食品の品質の低下を防止することができる。

【0013】

また、この発明は、三角柱形状の一面が開口されて中空状の三角柱形状に形成された内シートと、三角柱形状の一面が開口されて中空状の三角柱形状に形成された外シートと、前記内シートと前記外シートに挟まれて配置されたシート状食品と、が積層状態で構成されるとともに、前記外シート及び前記内シートの開口部を覆う開封シートを有する包装体が、前記内シートの内側でおにぎりを内包する包装おにぎりであって、前記外シートは、開口された一面の部位において、開口部端縁部から外側四方に向かって延設されるフランジ部が形成され、前記内シートは、三角形状の一对の三角壁部と、前記一对の三角壁部を連結する側壁部と、前記一对の三角壁部から折り曲げられた側壁形成部に重ね合わされる

壁形成シートと、を有して構成され、前記側壁部の一端には、前記開封シート及び前記外シートのフランジ部の一端に接着可能な接着部形成片を有し、前記壁形成シートの一端には、前記開封シート及び前記外シートのフランジ部の一端に接着可能な接着部形成片を有し、前記開封シートと前記外シートの四方のフランジ部が接着して配置されるとともに、前記内シートの側壁部の接着部形成片と前記開封シートの一端及び前記外シートの一方のフランジ部が接着され、前記壁形成シートの接着部形成片と前記開封シートの他端及び前記外シートの前記一方のフランジ部と対向する他方のフランジ部が接着され、前記内シートの壁形成シートと前記内シートの側壁形成部が接着され、さらに、前記開封シートが前記外シートと前記内シートの開口部を覆うように前記フランジ部に重ね合わされることにより、前記シート状食品は、前記外シート及び前記内シートで仕切られた空間内に配置された密封状態にあり、前記内シートの側壁部の壁形成シートに対応する前記外シートの側壁部の上部と前記外シートのフランジ部の下面側とを連結するように、前記外シートの側壁部の幅方向の中央部位に前記外シートの側壁部の長手方向に向かって延設するリブが配設されるとともに、前記リブの、前記フランジ部との接着される部位との離隔された位置において、前記外シートの三角壁部に向かう方向に沿って切りこみが形成され、前記包装体は、前記おにぎりを内包した状態において、切除される切除部を有し、前記切除部が、前記切り込みの延長線上にある前記外シートに向かって切除され、前記おにぎりとは前記シート状食品との間に位置する前記内シートと、前記切除部の終端部とが連結され、前記包装体は、前記切除部が前記切り込みから前記外シートの三角壁部を通して切除されるときに、前記内シートと前記外シートの接着部から、前記切除部以外の前記外シートと前記内シートを分離することにより前記内シートの前記おにぎりとは前記シート状食品との間に位置する前記内シートを引出し可能とされていることを特徴とする。

【0014】

これによれば、シート状食品が外シートと内シートとの間で仕切られた空間内に配置された密封状態において、切除部を切除する際、側壁部に配置されたリブに形成された切りこみを切り込むことにより、リブに連結された外シートの上部が切除され、内シートと分離させることができる。切除部と内シートとは切除部の終端部において連結されていることから、切除部で切除終了時に内シートを引き出すことができる。このため、おにぎりを食する直前までシート状食品を密封状態に維持することができてシート状食品の品質の低下を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図1】本発明の第一の実施形態における包装体の分解斜視図である。

【図2】同実施形態の包装体の展開平面図である。

【図3】同実施形態の包装おにぎりの正面図である。

【図4】同実施形態の使用態様の説明図である。

【図5】使用態様の説明図で、図4の続きである。

【図6】使用態様の説明図で、図5の続きである。

【図7】使用態様の説明図で、図6の続きである。

【図8】使用態様の説明図で、図7の続きである。

【図9】本発明の第二の実施形態における包装体の分解斜視図である。

【図10】同実施形態の包装体の展開平面図である。

【図11】同実施形態の包装体の後側からみた斜視図である。

【図12】同実施形態の包装おにぎりの正面図である。

【図13】同実施形態の使用態様の説明図である。

【図14】使用態様の説明図で、図13の続きである。

【図15】使用態様の説明図で、図14の続きである。

【図16】使用態様の説明図で、図15の続きである。

【図17】使用態様の説明図で、図16の続きである。

【図18】本発明の第三の実施形態における包装体の分解斜視図である。

【図 1 9】 同実施形態の海苔の展開平面図である。

【図 2 0】 同実施形態の内シート及び壁形成シートの展開平面図である。

【図 2 1】 同実施形態の包装おにぎりの斜視図である。

【図 2 2】 同実施形態の使用態様の説明図である。

【図 2 3】 使用態様の説明図で、図 2 2 の続きである。

【図 2 4】 使用態様の説明図で、図 2 3 の続きである。

【図 2 5】 本発明の第三の実施形態における包装おにぎりの変形例の正面図 である。

【図 2 6】 同変形例の使用態様の説明図である。

【図 2 7】 使用態様の説明図で、図 2 6 の続きである。

【発明を実施するための形態】

【0016】

本発明による包装おにぎりの第一の実施形態を図面に基づいて説明する。包装おにぎり 10 は、概略的には、図 1～3 に示すように、外シート 30 と、内シート 40 と、内シート 40 と外シート 30 に挟まれて配置されるシート状食品 50 とが積層状態で構成される包装体 20 が、折り曲げられた状態でおにぎり 100 を内包するものである。

【0017】

包装体 20 は図 1、2 に示すように、外シート 30 と、内シート 40 と、シート状食品 50 と、で構成されている。なお、包装体 20 の説明においては、図 2 の紙面における上下を上下方向、図 2 の紙面における左方向を左、右方向を右とし、図 2 の紙面における手前側を前、奥側を後方向とする。

【0018】

外シート 30 は、透明で可撓性を有するとともに上下方向に易開封性を有する合成樹脂で矩形状に形成されている。外シート 30 の上下の外周縁近傍には、包装おにぎり 10 を開封するときには切れる方向を誘導する、カットテープ 31、31 が左右方向に沿ってそれぞれ配設されている。外シート 30 の右側の後述する幅広部分 22 となる部分の近傍には、分離手段としてのミシン目 32 が形成されている。

【0019】

内シート 40 は、透明で可撓性を有するとともに上下方向に易開封性を有し、かつ、表面が高い滑り性を有する合成樹脂で矩形状に形成され、外シート 30 と略同一のサイズとされている。内シート 40 の上下の外周縁近傍には、包装おにぎり 10 を開封するときには切れる方向を誘導する、カットテープ 41、41 が左右方向に沿ってそれぞれ配設されている。内シート 40 の左側の後述する幅広部分 21 となる部分の近傍には、分離手段としてのミシン目 42 が形成されている。

【0020】

シート状食品 50 として、本実施形態では、矩形状の海苔 51 が用いられている。海苔 51 は、包装体 20 に形成された状態において、内部に収納可能となるように、外シート 30 及び内シート 40 より縦横のサイズが小さく形成されている。

【0021】

包装体 20 は、後側から、外シート 30、海苔 51、内シート 40 の順に重ねられ、図 1 の斜線部分に示される、外シート 30 及び内シート 40 の外周縁部 30a、40a を、熱溶着等して接着することで、内部に海苔 51 が収納された袋体に形成される。接着された包装体 20 の左右の外周縁部の上下方向における中央部には、左右方向における幅が広く中央側に突出して接着された、幅広部分 21、22 がそれぞれ設けられている。

【0022】

包装体 20 の内シート 40 の前側、かつ、上部側におにぎり 100 を配置して、包装体 20 を二つ折りして重ね合わせて、既に外シート 30 と内シート 40 とが接着されている部分（外周縁部）を、略コの字状に接着する。接着された部分が接着部 23（特許請求の範囲における接着部に相当する）となる。幅広部分 21、22 が折り重ねられて接着された部分が、幅広接着部 24、25 とされる。左側に位置する幅広接着部 24 に切り込み 26 を形成して包装おにぎり 10 が完成する。

【0023】

包装おにぎり10の機能作用を説明する。機能作用の説明では、図4～8の紙面における、上下を上下方向、図4～8の紙面における左方向を左、右方向を右とし、図4～8の紙面における手前側を前、奥側を後方向とする。

【0024】

包装体20は、幅広接着部24の切り込み26より左側を手で持ち上側に引っ張ると、図4に示すように、幅広接着部24で接着されて一体化している外シート30及び内シート40は、上側に向かって切れていく。

【0025】

補説すると、接着部23を含んだ外シート30及び内シート40の切り離される側が切除部27となり、おにぎり100及び海苔51を覆って残る外シート30及び内シート40側が残余部28（特許請求の範囲における包装体の切除部以外の部位に相当する）。となる。（なお、切除部27、残余部28は、切除部27が切り離されてから完全に切り離されるまでの状態をいうものとする。）つまり、切除部27は、接着部23を含み、包装体20の折り曲げ部分20aの、左側（一端側）に始端部27aが設けられ、右側（他端側）に終端部27bが設けられていることになる。

【0026】

包装体20が、外シート30及び内シート40に配設されたカッターテープ31、41まで切れていくと、外シート30及び内シート40は、図5に示すように、カッターテープ31、41に誘導されて右方向に切れていく。外シート30及び内シート40が、カッターテープ31、41の右端部まで切れると、図6に示すように、外シート30及び内シート40の易開封性により、接着部23との境界近傍を下側に向かって切れて行く。そして、包装体20を構成する外シート30及び内シート40が、幅広接着部25まで切れていくと、幅広接着部25に妨げられて内シート40の切断はとまる。つまり、残余部28の内シート40と切除部27の内シート40が切れずに、終端部27bで連結された状態が維持される。

【0027】

そして、さらに切除部27を手で右側に引っ張ると、図7に示すように、外シート30は、ミシン目32に誘導されて下端まで切れて、幅広接着部25から切除される。一方、内シート40は、ミシン目42に誘導されて残余部28に残った幅広接着部24から切除される。これにより、内シート40が右側に引っ張り出すことが可能となる。

【0028】

換言すれば、外シート30と内シート40が、重ね合わされて接着された接着部23を切除したうえで、切除部27と残余部28の内シート40とを連結させた状態とする。そして、残余部28側に残る接着部23（幅広接着部24）と残余部28側に残る内シート40を、切除部27側の接着部23（幅広接着部25）と残余部28側に残る外シート30を、分離可能として、残余部28側に残る内シート40をおにぎり100と海苔51の間から、右側に引っ張り出せる構成とされている。

【0029】

内シート40を引っ張り出すと、図8に示すように、外シート30が残り、手を汚さずに、海苔51に覆われたおにぎり100を得ることができる。これにより、手を汚すことなく、包装おにぎり10を開封して食べることが可能となる。

【0030】

上記構成の包装おにぎり10では、内シート40と外シート30と内シート40と外シート30に挟まれて配置されるシート状食品50とが積層状態で構成される包装体20が、内シート40の内側でおにぎり100を内包する包装おにぎりであって、包装体20は、おにぎり100を内包した状態において、切除される切除部27を備え、おにぎり100とシート状食品50との間に位置する内シート40と、切除部27の終端部27bとが連結され、切除部27が切除されるときに、おにぎり100とシート状食品50との間に位置する内シート40を引き出し可能とされていることを特徴とする。

【0031】

これによれば、切除部27の終端部27bにおいて切除部27とおにぎり100とシート状食品50との間に位置する内シート40とが連結されていることにより、切除部27を切除する手の動きを利用して、おにぎり100とシート状食品50との間にある内シート40を引き出し可能となる。よって、内シート40を手で持ちかえることなく、より容易に引き抜くことができる。

【0032】

また、包装体20は、おにぎり100を内包した状態において、内シート40と外シート30とが重ね合わされて接着された接着部23を有し、包装体20の切除部27以外の部位（残余部28）には、切除部27が切除されるときに、接着部23から包装体20の切除部27以外の部位（残余部28）を構成する内シート40及び外シート30が分離可能とされる分離手段（ミシン目32、ミシン目42）が配設されている。

【0033】

これによれば、接着部23から内シート40、外シート30を分離可能となるので、内シート40を容易に引き抜くことができることにつながる。本実施形態では、包装体20の密封性を確保するために、幅広接着部24に切り込み26が形成され、切除部27を切除するとそのままでは、包装体20の切除部27以外の部位（残余部28）に接着部23（幅広接着部24、幅広接着部25）が残ってしまうが、分離手段（ミシン目32、ミシン目42）により、接着部23（幅広接着部24、幅広接着部25）から、内シート40、外シート30を分離可能となるので、内シート40を確実に引き抜くことができる。

【0034】

また、包装体20は、おにぎり100を内包した状態において、二つ折りされ、内シート40と外シート30の外周縁部30a、40aが重ね合わされて接着された接着部23を有し、切除部27は、接着部23を含み、包装体20の折り曲げ部分20aの、一端側に始端部27aが設けられ、他端側に終端部27bが設けられている。

【0035】

これによれば、接着部23が形成されない包装体20の折り曲げ部分20aの一端側から他端側に向かって接着部23を含んだ切除部27を切除することになり、切除部27を切除するときの、包装体20の折り曲げ部分20aの一端から他端に向かう手の動きを利用して、おにぎり100とシート状食品50との間に位置する残余部28の内シート40を、包装体20の折り曲げ部分20aに沿って引き出し可能となる。

【0036】

本発明の第二の実施形態を説明する。以下の説明において、第一の実施形態と同じ構成については、同一符号を付し全部又は一部の説明を省略する。なお、包装体20Aの説明においては、図10の紙面における上下を上下方向、図10の紙面における左方向を左、右方向を右とし、図10の紙面における手前側を前、奥側を後方向とする。

【0037】

包装おにぎり10Aは、図9～12に示すように、外シート30Aと、内シート40Aと、内シート40Aと外シート30Aに挟まれて配置されるシート状食品50とが積層状態で構成される包装体20Aが、折り曲げられた状態でおにぎり100を内包するものである。

【0038】

外シート30Aは、外シート30と同様の部材であるが、上下方向の長さL1が内シート40Aの上下方向の長さL2より長く形成されている。

【0039】

図9において、外シート30Aの中央部の網掛け線を付した部分は、外シート30Aと内シート40Aとが折り重ねられて包装体20Aとなったときに、内シート40Aと重なり合わない余りしろ33Aとされる。

【0040】

また、外シート30Aの左側の外周縁部30Aaの、上下方向における中央部には、左

右方向の幅が他の外周縁部 30Aa より幅広に形成された掴み代形成部 34A が配設されている。

【0041】

内シート 40A は、内シート 40 と同様の部材であるが、右側の外周縁部の中央部から左右方向における中央に向かって、左右方向に長尺な帯状の連結ブリッジ 43A が配設されている。連結ブリッジ 43A は、内シート 40A と同様の部材で、内シート 40A の前側に配置され、左右方向の端部 43Aa、43Ab においてのみ、内シート 40A と接着されている。連結ブリッジ 43A は、後述する切除部 27A を切り離すときに、切除部 27A と後述する残余部 28A の内シート 40A と連結可能とするものである。

【0042】

また、内シート 40A の左側の外周縁部 40Aa の、上下方向における中央部には、左右方向の幅が他の外周縁部 40Aa より幅広に形成された掴み代形成部 44A が配設されている。掴み代形成部 44A は、掴み代形成部 34A より、余りしろ 33A に相当する分だけ、上下方向の長さが短く形成されている。換言すれば、掴み代形成部 44A と、掴み代形成部 34A とは、後述する外シート 30A と内シート 40A を接着し包装体 20A を袋体としたときに、余りしろ 33A を除いた部分が略同一形状となるように形成されている。

【0043】

包装体 20A は、図 10、11 に示すように、外シート 30A の余りしろ 33 を折り合わせ、後側に外シート 30A の他の部分に対して直交するように形成し、外シート 30A を内シート 40A の長さ L2 と略同一の長さとし、後側から外シート 30A、海苔 51、内シート 40A の順に重ね合わせ、掴み代形成部 34A、44A を含む外周縁部 30Aa、40Aa を接着し、内部に海苔 51 が収納された袋体に形成される。

【0044】

そして、図 10 の状態で、包装体 20A の内シート 40A の前側、かつ、上部側におにぎり 100 を配置する。そして、袋体に形成された包装体 20A を二つ折りして重ね合わせて、図 12 に示すように、既に外シート 30A と内シート 40A とが接着されている部分（外周縁部 30Aa、40Aa）を、略コの字状に接着する。

【0045】

このとき、掴み代形成部 34A どうし、及び、掴み代形成部 34A、掴み代形成部 44A、が折り重ねられて接着された部分が、掴み代 25A とされる。掴み代 25A は、外シート 30A の掴み代形成部 34A どうしが重ね合わされて二枚が重なる二重接着部 25Aa と、外シート 30A 及び内シート 40A が折り重ねられて、四枚が重なる四重接着部 25Ab とを有することになる。

【0046】

また、連結ブリッジ 43A は、包装体 20A 本体と同様に二つ折りされ端部 43Ab 側で、既に外シート 30A と内シート 40A とが接着されている部分に挟まれて接着されている。

【0047】

そして、本実施形態では、掴み代 25A を含む、外シート 30A どうし、及び、外シート 30A と内シート 40A とが接着された部分が接着部 23A（特許請求の範囲における接着部に相当する）となる。

【0048】

さらに、図 12 の丸内に示すように、外シート 30A の余りしろ 33A が重ね合わされて接着されている部位（二重接着部 25Aa）に、切り込み 26A を形成し、切り込み 26A から内シート 40A の折り曲げ部分 40Ab の接着部 23A との境界部分に向かって二重接着部 25Aa が切れるように誘導する長円形の誘導孔 29A を複数設けることで、包装おにぎり 10A が完成する。なお、包装体 20A の図 12 の状態が、特許請求の範囲における「おにぎりを内包した状態」となる。

【0049】

包装おにぎり 10 A の機能作用を説明する。本実施形態体の機能作用の説明では、図 12～17 の紙面における、上下を上下方向、図 12～17 の紙面における左方向を左、右方向を右とし、図 12～17 の紙面における手前側を前、奥側を後方向とする。

【0050】

包装体 20 A を、図 12 の状態から、掴み代 25 A の二重接着部 25 A a に形成された切り込み 26 A より左側を手で持ち上側に引っ張ると、図 13 に示すように、誘導孔 29 A に誘導されて、内シート 40 A の四重接着部 25 A b と接着されていない部位の境界に向かって、二重接着部 25 A a を斜め上方に切れていく。換言すれば、残余部 28 A 側の内シート 40 A に接着部 23 A が含まれないように切れていく。

【0051】

そして、二重接着部 25 A a と、切り込み 26 A と、誘導孔 29 A と、で残余部 28 A 側の内シート 40 A に接着部 23 A が含まれないように誘導する誘導手段 21 A が構成されていることになる。

【0052】

また、本実施形態では、接着部 23 A を含んだ外シート 30 A 及び内シート 40 A の切り離される側が切除部 27 A（左側が始端部 27 A a となる）となり、おにぎり 100 及び海苔 51 を覆って残る外シート 30 A 及び内シート 40 A 側が残余部 28 A（特許請求の範囲における包装体の切除部以外の部位に相当する）となる。

【0053】

包装体 20 A は、図 13 に示すように、残余部 28 A の内シート 40 A に、接着部 23 A を含まない状態で、外シート 30 A 及び内シート 40 A が、上側に向かって切れていく。

【0054】

その後、切除部 27 A が、外シート 30 A 及び内シート 40 A に配設されたカッターテープ 31、41 まで切れていくと、外シート 30 A 及び内シート 40 A は、図 14 に示すように、カッターテープ 31、41 に誘導されて右方向に切れていく。

【0055】

外シート 30 A 及び内シート 40 A が、カッターテープ 31、41 の右端部まで切れると、図 15 に示すように、外シート 30 A 及び内シート 40 A の易開封性により、接着部 23 との境界近傍を下側に向かって切れて行く。

【0056】

そして、図 16 に示すように、包装体 20 A を構成する外シート 30 A 及び内シート 40 A が、折れ曲がり部 30 A b、40 A b まで切れていく。

【0057】

本実施形態の場合、外シート 30 A は、接着部 23 A を含んだ切除部 27 A 側と、残余部 28 A 側とに、終端部 27 A b 側において、完全に切り離され分離する。また、内シート 40 A は、連結ブリッジ 43 A との接着部分である連結ブリッジ 43 A の端部 43 A a、43 A b の間の外側をまわり込みながら切れていく。つまり、連結ブリッジ 43 A は、外シート 30 A 及び内シート 40 A の内側に配置され、端部 43 A a、43 A b においてのみ、内シート 40 A と接着されているので、残余部 28 A 側の内シート 40 A と切除部 27 A 側の内シート 40 A が、終端部 27 A b 側で連結された状態が維持される。

【0058】

以上のことから、連結ブリッジ 43 A と、上下方向に易開封性を有する、外シート 30 A 及び内シート 40 A とで、接着部 23 A が残余部 28 A の内シート 40 A 及び外シート 30 A 側に含まれないように誘導する誘導手段 22 A が構成される。

【0059】

一方、残余部 28 A の内シート 40 A には接着部 23 A は残らない。これにより、内シート 40 A が右側に引っ張りだすことが可能となる。

【0060】

換言すれば、外シート 30 A と内シート 40 A が、重ね合わされて接着された接着部 2

3 Aを切除したうえで、切除部 2 7 Aと残余部 2 8 Aの内シート 4 0 Aとを連結させた状態として、残余部 2 8 A側に残る内シート 4 0 Aをおにぎり 1 0 0と海苔 5 1の間から、右側に引っ張り出せる構成とされている。

【0061】

内シート 4 0 Aを引っ張り出すと、図 1 7に示すように、外シート 3 0 Aが残り、手を汚さずに、海苔 5 1に覆われたおにぎり 1 0 0を得ることができる。

【0062】

上記構成の包装おにぎり 1 0 Aによっても、内シート 4 0 Aを引っ張り出すと、外シート 3 0 Aが残り、手を汚さずに、海苔 5 1に覆われたおにぎり 1 0 0を得ることができる。これにより、手を汚すことなく、包装おにぎり 1 0 Aを開封して食べることが可能となる。

【0063】

上記構成の包装体 2 0 Aでは、おにぎり 1 0 0を内包した状態において、内シート 4 0 Aと外シート 3 0 Aとが重ね合わされて接着された接着部 2 3 Aを有し、切除部 2 7 Aが切除されるときに、包装体 2 0 Aの切除部 2 7 A以外の部位（残余部 2 8 A）を構成する内シート 4 0 A及び外シート 3 0 Aに接着部 2 3 Aが含まれないように誘導する誘導手段 2 1 A（二重接着部 2 5 A a、切り込み 2 6 A、誘導孔 2 9 A）、2 2 A（外シート 3 0 A、内シート 4 0 A、連結ブリッジ 4 3 A）を備えている。

【0064】

これによれば、包装体 2 0 Aの切除部 2 7 A以外の部位（残余部 2 8 A）を構成する内シート 4 0 A及び外シート 3 0 Aに接着部 2 3 Aが含まれないようになるので、内シート 4 0を容易に引き抜くことができることにつながる。

【0065】

本発明の第三の実施形態を説明する。実施する際には内シート 2 4 0、シート状食品 2 6 0及び開封シート 2 7 0には、線は付されないが、理解を容易にするため、図面に二点鎖線を付して説明する。二点鎖線は、各構成部分のおおよその境界、折り曲げ部分を示すものとする。

【0066】

包装おにぎり 1 0 Cは、図 2 1に示すように、内シート 2 4 0と外シート 2 3 0と内シート 2 4 0と外シート 2 3 0に挟まれて配置されるシート状食品 2 6 0とが積層状態で構成される包装体 2 2 0が、内シート 2 4 0の内側でおにぎり 1 0 0を内包する。

【0067】

包装体 2 2 0は、図 1 8、2 1に示すように、外シート 2 3 0と、内シート 2 4 0と、シート状食品 2 6 0と、開封シート 2 7 0と、で構成されている。なお、包装体 2 2 0の説明において、図 1 8を参照する場合においては、図 1 8の矢印の、Fを前、Bを後ろ、Rを右、Lを左、Uを上、Dを下、とする。

【0068】

外シート 2 3 0は、可撓性を有する合成樹脂で形成され、図 1 8に示すように、三角形に形成され前後方向において対向して配置される二つの三角壁部 2 3 1、2 3 2と、長方形に形成され三角壁部 2 3 1、2 3 2の下側の辺、左斜め上側の辺、どうしを連結する二つの側壁部 2 3 3、2 3 4と、を有して、右斜め上方側が開口する中空な略三角柱形状に形成されている。外シート 2 3 0の開口端縁部から外側に向かって延設されるフランジ部 2 3 5が配設されている。

【0069】

内シート 2 4 0は、可撓性を有するとともに表面が高い滑り性を有する合成樹脂で、図 2 0に示すように、三角形に形成された二つの三角壁部 2 4 1、2 4 2と、長方形に形成され三角壁部 2 4 1、2 4 2の対向する辺どうしを連結する側壁部 2 4 3と、を有している。

【0070】

側壁部 2 4 3の長手方向における一端側には、略矩形状の蓋片 2 4 3 aが配設されてい

る。側壁部 243 の長手方向における他端側には、略矩形状の接着部形成片 243b が配設されている。

【0071】

三角壁部 241 の蓋片 243a に近い側の辺には、長形状の側壁形成片部 244 が延設され、三角壁部 242 の蓋片 243a に近い側の辺には、長形状の側壁形成片部 245 が延設され、三角壁部 241 の接着部形成片 243b に近い側の辺には、長形状のフランジ形成片 246 が延設され、三角壁部 242 の接着部形成片 243b に近い側の辺には、長形状のフランジ形成片 247 が延設されている。

【0072】

三角壁部 241、242 は、三角壁部 231、232 より若干小さめのサイズに形成され、側壁部 243 は、側壁部 233、234 より若干小さめのサイズに形成されている。側壁形成片部 244 と、側壁形成片部 245 とを合わせたサイズは、側壁部 233、234 より若干小さいサイズに形成されている。また、フランジ形成片 246、247 の突出幅は、フランジ部 235 の突出幅より小さく設定されている。

【0073】

壁形成シート 248 は、可撓性を有する合成樹脂で帯状に形成され、側壁形成片部 244 及び、側壁形成片部 245 の長手方向における長さとは略二倍の長さに設定されている。壁形成シート 248 の長手方向における一方の端部には、略矩形状の接着部形成片 248c が延設されている。

【0074】

壁形成シート 248 の接着部形成片 248c を除いた部分の長手方向における中央部分に折り曲げ部 248a が形成されている。壁形成シート 248 の長手方向における接着部形成片 248c とは反対側の端部から折り曲げ部 248a までの表裏いずれか一方の面（図 20 においては紙面奥側の面）が、側壁形成片部 244 及び側壁形成片部 245 と接着可能な接着面 248b とされている。

【0075】

壁形成シート 248 は、接着面 248b で側壁形成片部 244、側壁形成片部 245 と接着され、おにぎり 100 を内包した状態において、内シート 240 の側の側壁部分を形成するものである。

【0076】

接着部形成片 243b と、接着部形成片 248c は、外シート 230 のフランジ部 235 と重ね合わせたときに、フランジ部 235 より突出するように形成されている。

【0077】

シート状食品 260 として、本実施形態では、図 19 に示すように、二枚の海苔 261、265 が用いられている。海苔 261 は、三角形の三角壁部 262 と、三角壁部 262 の二辺からそれぞれ外側に向かって延設され、長形状に形成されたふたつの側壁部 263、264 と、を有している。海苔 265 は、三角形の三角壁部 266 と、三角壁部 266 の二辺からそれぞれ外側に向かって延設され、長形状に形成されたふたつの側壁部 267、268 と、を有している。三角壁部 262、266 は、三角壁部 231、232 より若干小さめのサイズに形成され、側壁部 263、264、267、268 は、側壁部 233、234 より若干小さめのサイズに形成されている。

【0078】

開封シート 270 は、可撓性を有して角部分が丸く形成された略矩形状のシートが用いられ、図 18 に示すように、フランジ部 235 の外形形状と略同一の形状とされ、外シート 230 の開口部分を覆い可能とされている。開封シート 270 は、長手方向における一端側に半長円状に突出する掴み片 271 と、長手方向における他端側に半長円状に突出する連結片 272 を有している。開封シート 270 は、外周縁部が外シート 230 のフランジ部 235 と接着されるもので、掴み片 271 と、連結片 272 は、フランジ部 235 と重ね合わせたときに、フランジ部 235 より突出するように形成されている。

【0079】

包装おにぎり 10C の製造方法は、予め海苔 261、265 を、図 18 に示すように、米等のでんぷん質からなる糊で側壁部 263 と側壁部 267、側壁部 264 と側壁部 268 どうしを接着して、斜め上方が開口した中空な略三角柱形状に形成する。

【0080】

外シート 230 内にシート状食品 260（海苔 261、265）をセットした状態にしておく。内シート 240 の側壁形成片部 244 を三角壁部 241 に対して、側壁形成片部 245 を三角壁部 242 に対して、内側に折り曲げ、壁形成シート 248 の接着面 248b を外側から貼り付けて、内シート 240 に側壁部 233 に対応する側壁を形成する。そして、壁形成シート 248 を折り返して貼り付けた部分と重ね合わせ、接着部形成片 248c を内シート 240 の開口縁部に沿って折り曲げ、内シート 240 を、図 18 に示すような、斜め上方が開口した中空な略三角柱形状に形成する。

【0081】

そして、内シート 240 の内側におにぎり 100 を配置する。おにぎり 100 を内包した内シート 240 を、外シート 230 の内側に配置されたシート状食品 260（海苔 261、265）の内側に配置する。

【0082】

フランジ部 235 に、フランジ形成片 246、247、接着部形成片 243b、接着部形成片 248c を重ね合わせて、内シート 240、外シート 230 の開口縁部を覆うように開封シート 270 を配置して、外シート 230 のフランジ部 235 と開封シート 270 の外周縁部とを接着して、包装おにぎり 10C（包装体 220）が完成する。

【0083】

このとき、図 21（海苔 261、265 は省略してある）に示すように、接着部形成片 243b、接着部形成片 248c は、フランジ部 235 及び開封シート 270 と接着されるが、内シート 240 のフランジ形成片 246、247 は、フランジ部 235 と開封シート 270 に挟み込まれるのみで、接着されない。

【0084】

そして、接着部形成片 243b と開封シート 270、接着部形成片 248c と開封シート 270、が接着される部分の接着力は、フランジ部 235 と接着部形成片 243b、接着部形成片 248c が接着される部分の接着力より強固なものとする。

【0085】

換言すれば、開封シート 270 で開封するとき、フランジ部 235 と内シート 240（接着部形成片 243b、接着部形成片 248c）との接着部分が剥がれて、内シート 240 と開封シート 270 の接着部分が剥がれない状態とする。

【0086】

本実施形態では、剥がれやすく接着された、フランジ部 235 と接着部形成片 248c との接着部分、フランジ部 235 と接着部形成片 243b との接着部分、が接着部 221、接着部 222 となるとともに、内シート 240 と外シート 230 との接着部分を剥離可能な剥離手段 223、剥離手段 224 となる。

【0087】

また、図 21、22 に示すように、始端部 226a においては、上から掴み片 271、接着部形成片 248c、フランジ部 235 の順に重ね合わされ、上端部分で掴み片 271、接着部形成片 248c のみが接着されている。また、終端部 226b 側においては、上から連結片 272、接着部形成片 243b、フランジ部 235 の順に重ね合わされ、下端部分で連結片 272、接着部形成片 243b のみが接着されている。

【0088】

包装おにぎり 10C の機能作用を説明する。掴み片 271 と、接着部形成片 248c とが接着された部分を手で持ち、図 22 の状態から、開封シート 270 を接着部形成片 243b 側に引っ張ると、接着部形成片 248c と開封シート 270 の掴み片 271 と、接着部形成片 248c とフランジ部 235 との接着力の違いから、フランジ部 235 と接着部形成片 248c との接着部分が剥がれる。

【0089】

そして、開封シート270を引っ張ると図23に示すように、壁形成シート248が引っ張られて、側壁形成片部244及び側壁形成片部245から壁形成シート248の接着面248bが剥がれていき、壁形成シート248が全て引き出されて内シート240の側壁部分が開放される。

【0090】

本実施形態では、図23に示すように、剥がされる開封シート270と壁形成シート248が切除部226となり、残りの部分が残余部227となる。つまり、包装体220において、切除部226は、掴み片271側に始端部226aが設けられ、連結片272側に終端部226bが設けられていることになる。

【0091】

また、内シート240のフランジ形成片246、247は、フランジ部235と開封シート270に挟み込まれるのみであるので、開封シート270とフランジ部235とが引き剥がされることにより、フランジ部235及び開封シート270と離れていく。

【0092】

さらに、開封シート270を剥がしていくと、図24に示すように、連結片272と、接着部形成片243bが接着されて連結されていることにより、内シート240を引っ張り出すことが可能となる。

【0093】

内シート240を引っ張り出すと、外シート230（残余部227）が残り、手を汚さずに、海苔261、265に覆われたおにぎり100を得ることができる。このような構成によっても、手を汚すことなく、包装おにぎり10Cを開封して食べることが可能となる。

【0094】

上記構成の包装おにぎり10Cでは、切除部226の終端部226bにおいて切除部226と残余部227の内シート240とが連結されていることにより、切除部226を切除する手の動きを利用して、おにぎり100とシート状食品260との間にある残余部227の内シート240を引き出し可能となる。また、第一の実施形態の包装おにぎり10、第二の実施形態の包装おにぎり10Aに比して、切除部226が小さくなるので、引っ張り出す動作領域を小さくすることができる。

【0095】

また、包装体220は、おにぎり100を内包した状態において、内シート240と外シート230とが重ね合わされて接着された接着部221、222を有し、包装体220には、切除部226が切除されるときに、内シート240と外シート230との接着部分を剥離可能な剥離手段223、224が配設されている構成としているので、内シート240を容易に引き抜くことができる。

【0096】

上記の第三の実施形態の包装おにぎり10Cの変形例を図面に基づいて説明する。以下の説明において、第三の実施形態と同じ構成については、同一符号を付し全部又は一部の説明を省略する。

【0097】

包装おにぎり10C1では、外シート230が、図25の二点鎖線で参照するように、開口縁部に沿うように易開封性を有する。そして、側壁部233の上部の前後方向における中央部には、図25に示すように、左斜め上側に突出するリブ236が配設されている。リブ236は、左右方向からみて上下方向に沿って、側壁部233の上部とフランジ部235の下面側とを連結するように形成されている（方向については図18参照）。リブ236には、切り込み236aが形成されている。

【0098】

そして、接着部形成片243bとフランジ部235、接着部形成片248cとフランジ部235、が接着される部分の接着力は、接着部形成片243b、接着部形成片248c

と開封シート 270 が接着される部分の接着力と同等とする。

【0099】

換言すれば、開封シート 270 で開封するとき、外シート 230 のフランジ部 235 と、内シート 240（接着部形成片 243b、接着部形成片 248c）と、開封シート 270 と、の接着部分が一体となって分離される状態とする。

【0100】

本変形例においても、フランジ部 235 と接着部形成片 248c との接着部分、フランジ部 235 と接着部形成片 243b との接着部分、がそれぞれ接着部 221、接着部 222 となる。

【0101】

図 25、26 に示すように、リブ 236 と、切り込み 236a と、開口縁部に沿って開封性を有する外シート 230 とで、切除部 228 が切除されるときに、接着部 221、222 から包装体 220 の切除部 228 以外の部位（残余部 229）を構成する内シート 240 及び外シート 230 が分離可能とされる分離手段 225 が構成される。なお、外シート 230 に付された二点鎖線は、外シート 230 の切断予定線で、分離手段 225 の理解を容易にするためのものである。また、本変形例は、第三の実施形態の変形例であるが、分離手段 225 は、特許請求の範囲における請求項 1 の分離手段に相当する。

【0102】

包装おにぎり 10C1 の機能作用を説明する。掴み片 271 と、接着部形成片 248c とが接着された部分を手で持ち、図 25 の状態から、開封シート 270 を接着部形成片 243b 側に引っ張ると、一体化しているフランジ部 235 も引き上げられ、切り込み 236a から、リブ 236 が側壁部 233 に向かって切れ、さらに側壁部 233 との境界部分から、側壁部 233 の前後方向にそれぞれ別れて切れていく（図 25 の丸内参照）。

【0103】

そして、外シート 230 は開口縁部に沿うように易開封性を有することから、図 26 に示すように、符号 225 が付された二点鎖線に沿って、三角壁部 231、232 の斜め下側に（フランジ部 235 と略平行となるように）切れていく。さらに、側壁部 234 の前後の端部から中央に向かってそれぞれ切れていき合流する。換言すれば、フランジ部 235 と略平行に輪切り状となるように、三角壁部 231、232、側壁部 233、234 が切り離されていくことになる。

【0104】

なお、切り離される過程における、開封シート 270、壁形成シート 248、側壁形成片部 244、側壁形成片部 245、の機能作用、フランジ形成片 246、247、フランジ部 235、開封シート 270 の機能作用は、図 23 に示す包装おにぎり 10C と同様であるので説明は省略する。

【0105】

本実施形態では、図 26 に示すように、包装おにぎり 10C1 の包装体 220 の符号 225 が付された二点鎖線を境界として、右側の部分を構成する、外シート 230 の三角壁部 231、232、側壁部 233、234、フランジ部 235、開封シート 270、壁形成シート 248、が切除部 228 となり、包装おにぎり 10C1 の包装体 220 の符号 225 が付された二点鎖線を境界として、左側の残りの部分が残余部 229 となる。つまり、包装体 220 において、切除部 228 は、掴み片 271 側に始端部 228a が設けられ、連結片 272 側に終端部 228b が設けられていることになる。

【0106】

さらに、切除部 228 を分離していくと、図 27 に示すように、連結片 272 と、接着部形成片 243b が接着されて連結されていることにより、内シート 240 を引っ張り出すことが可能となる。

【0107】

内シート 240 を引っ張り出すと、外シート 230（残余部 229 側の）が残り、手を汚さずに、海苔 261、265 に覆われたおにぎり 100 を得ることができる。

【0108】

このような構成によっても、包装体220の切除部228以外の部位を構成する内シート240及び外シート230に接着部221、222が含まれないようになるので、内シート240を容易に引き抜くことができることにつながる。よって、手を汚すことなく、包装おにぎり10C1を開封して食べることが可能となる。

【0109】

本発明の包装おにぎりは上記第一～三の実施形態、及び、第三の実施形態の変形例に限定されるものではない。即ち、第一～三の実施形態、及び、第三の実施形態の変形例に現わされた発明の要旨を逸脱しない限り各種の設計変更等が可能である。

【0110】

例えば、切り込み26、26A（図3、図12参照）は、接着してから形成したが、予め、外シート30、30A、内シート40、40Aの対応する位置に切り込みを形成してから接着することも可能である。

【0111】

また、誘導孔29A（図12参照）も接着してから形成したが、予め、外シート30Aの対応する位置に孔を形成してから接着することも可能である。

【0112】

また、海苔261の側壁部263、264、海苔265の側壁部267、268の短手方向の幅は、シート状食品260の側壁部分を形成できるのであれば適宜変更することができる（図19参照）。

【0113】

また、図19の二点鎖線に示すように、例えば、図18の状態のシート状食品260の開口部分を覆うように、三角壁部262から台形状の覆い部分を延設することも可能である。また、覆い部分を三角壁部266から延設することも可能であり、さらに、三角壁部262及び三角壁部266から延設させることも可能である。

【0114】

また、包装おにぎり10、10C1を、開封切除するときに切る方向を誘導、補助する手段として、カットテープ31、カットテープ41、カットテープ138等を用いたが（図3参照）、当該機能を有するのであれば、ミシン目、カットライン等既存の技術を用いることができる。

【0115】

また、外シート30、内シート40、に設けられた分離手段としてのミシン目32、42を用いたが（図1参照）、当該機能を有するのであれば、カットライン等の既存の分離手段を用いることができる。

【0116】

また、包装おにぎり10において、幅広接着部24（図3参照）を設けなくて、外シート30、内シート40に直接切り込みを設け、外シート30、内シート40を切り離すこともできる。さらに、包装おにぎり10Aのように、連結ブリッジ43A（図12、図16参照）を、内シート40の内側に配設し、切り離される切除部27と残余部28に残る内シート40とを架け渡すようにすることも可能である。この場合、ミシン目32、42（図1参照）を省略することができる。

【0117】

また、シート状食品50、260（図1、図9、図19参照）は、海苔51、261、265としたが、うす焼卵、薄切り焼き肉等シート状の食品を適用することができる。

【0118】

また、包装おにぎり10Cにおいて（図21参照）、接着部形成片248cと掴み片271のフランジ部235より突出する部分、接着部形成片243bと連結片272のフランジ部235より突出する部分、のみが、接着力がフランジ部235と開封シート270が接着される部分の接着力より強固なものとすることも可能である。

【0119】

また、包装おにぎり 10C1 において（図 25、図 26 参照）、外シート 230 の切除部 228 となる部分と、残余部 229 となる部分とを別体で構成し、境界部分を重ね合わせて接着することで切り離し可能とすることもできる。

【符号の説明】

【0120】

10 包装おにぎり
10A 包装おにぎり
10C 包装おにぎり
10C1 包装おにぎり
20 包装体
23 接着部
27 切除部
27a 始端部
27b 終端部
28 残余部
20A 包装体
21A 誘導手段
22A 誘導手段
23A 接着部
25Aa 二重接着部
26A 切り込み
27A 切除部
27Aa 始端部
27Ab 終端部
28A 残余部
29A 誘導孔
30 外シート
32 ミシン目
30A 外シート
40 内シート
42 ミシン目
40A 内シート
43A 連結ブリッジ
50 シート状食品
51 海苔
220 包装体
221 接着部
222 接着部
223 剥離手段
224 剥離手段
226 切除部
225 分離手段
226a 始端部
226b 終端部
227 残余部
228 切除部
228a 始端部
228b 終端部
229 残余部
230 外シート

236a 切り込み
 260 シート状食品
 261 海苔
 270 開封シート

【手続補正3】

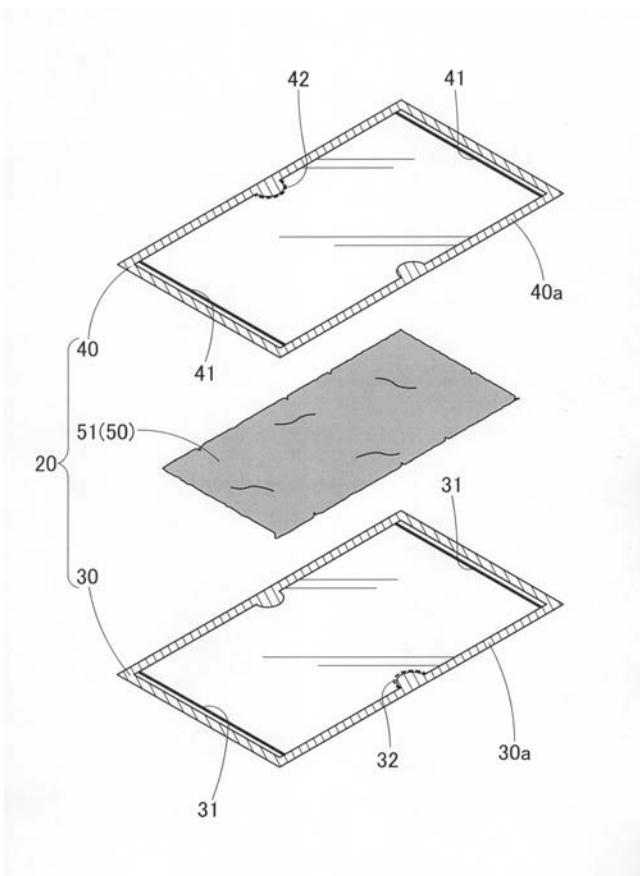
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】全図

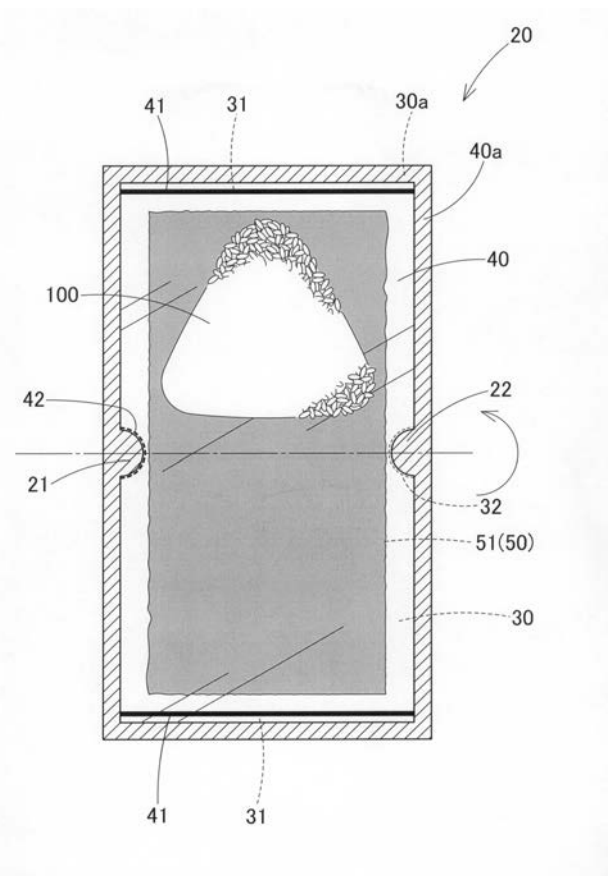
【補正方法】変更

【補正の内容】

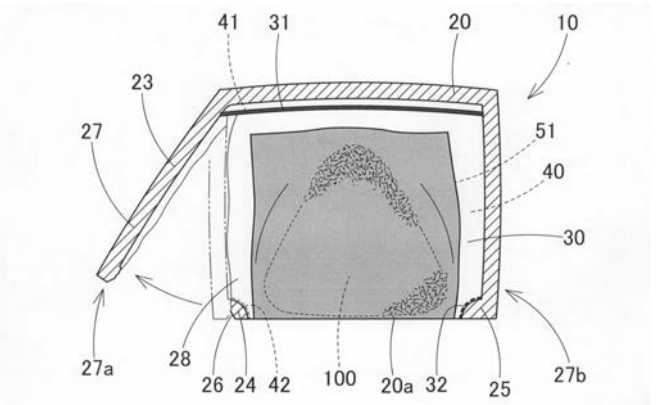
【図1】



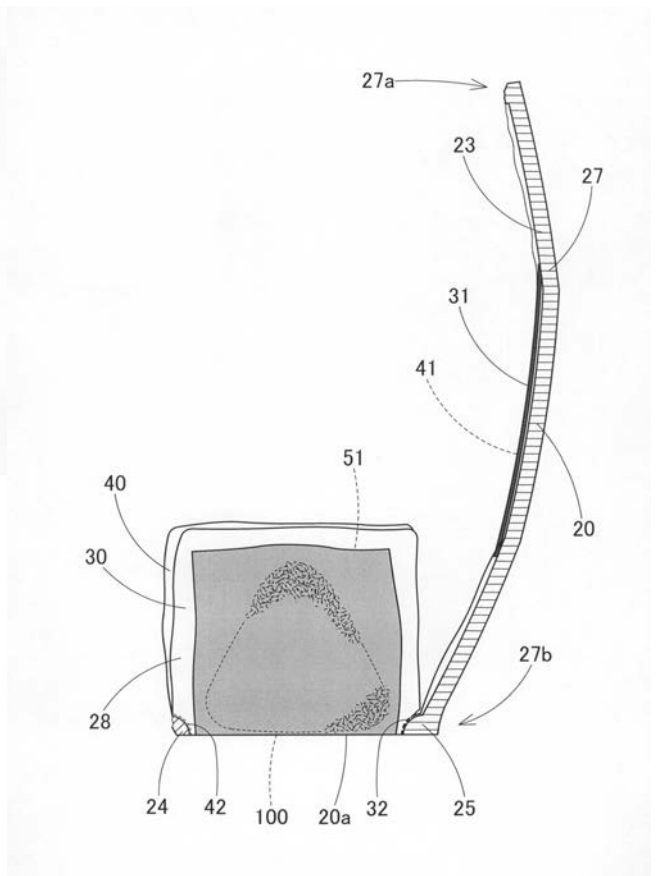
【図2】



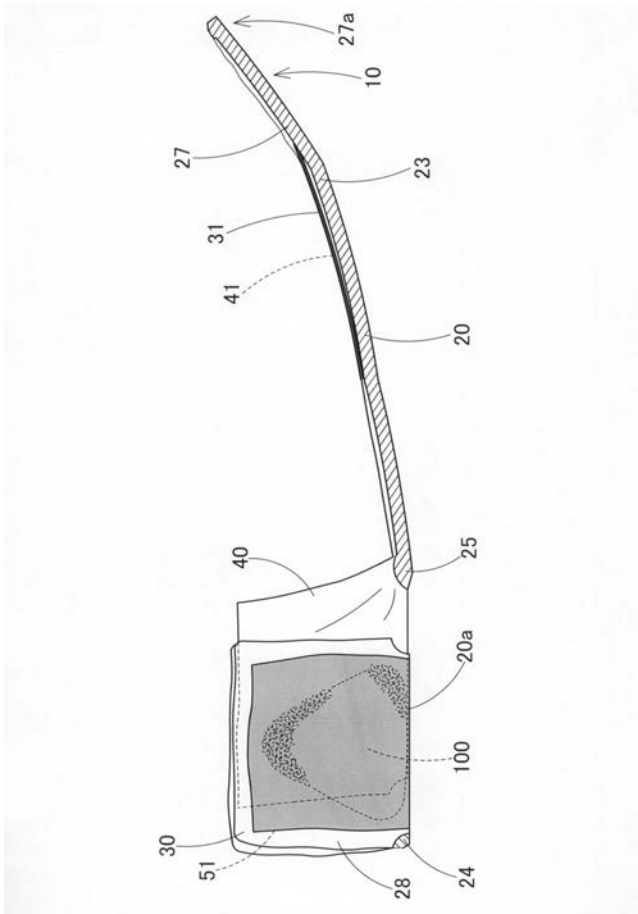
【 図 4 】



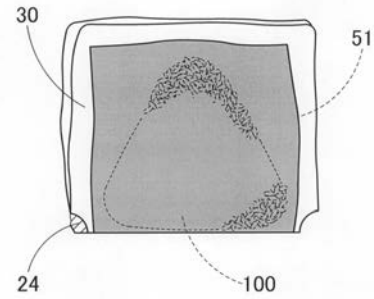
【 図 6 】



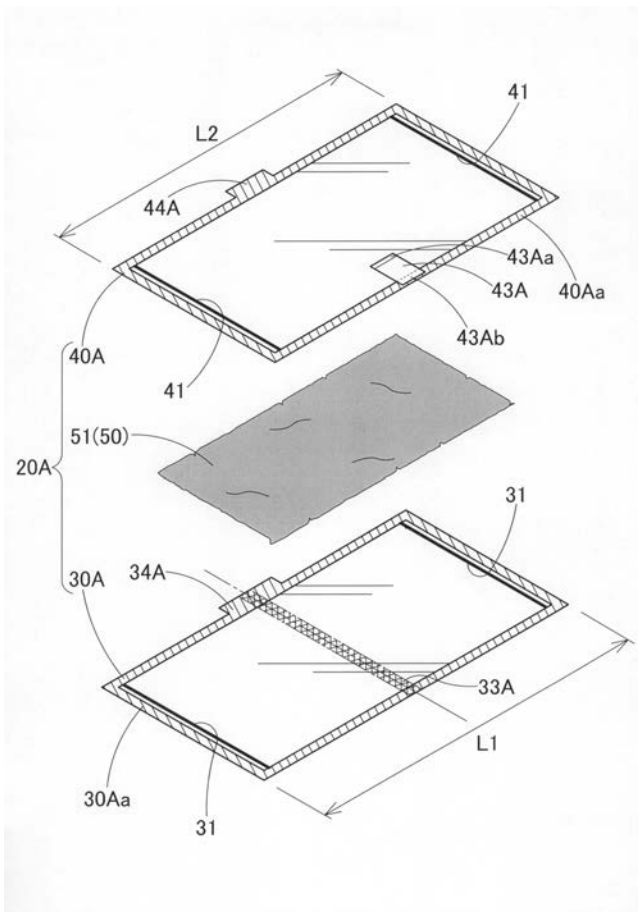
【図 7】



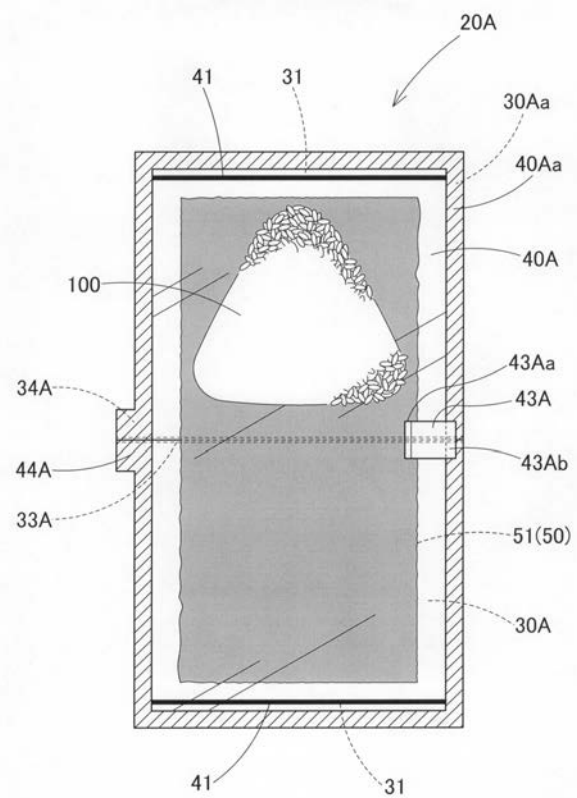
【図 8】



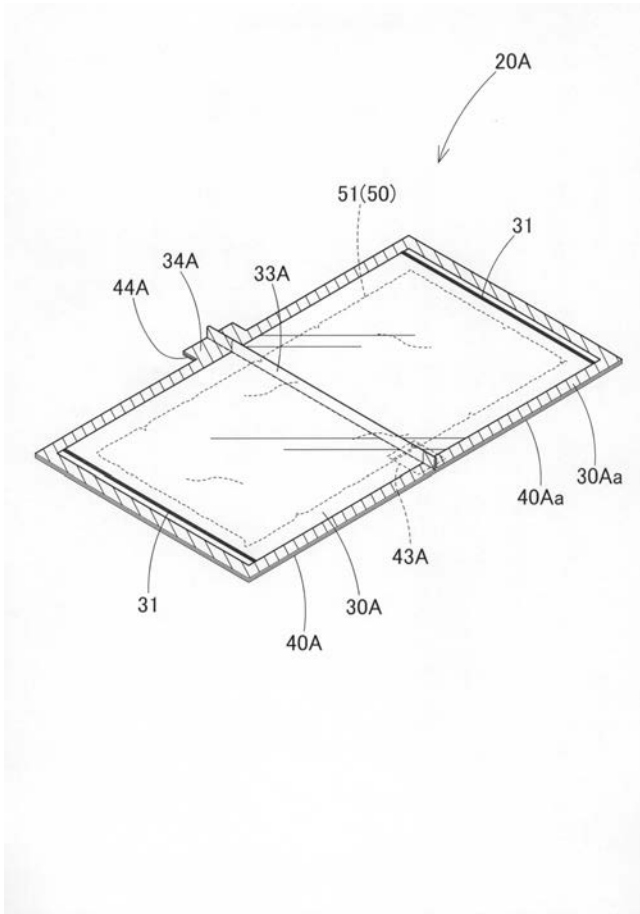
【図 9】



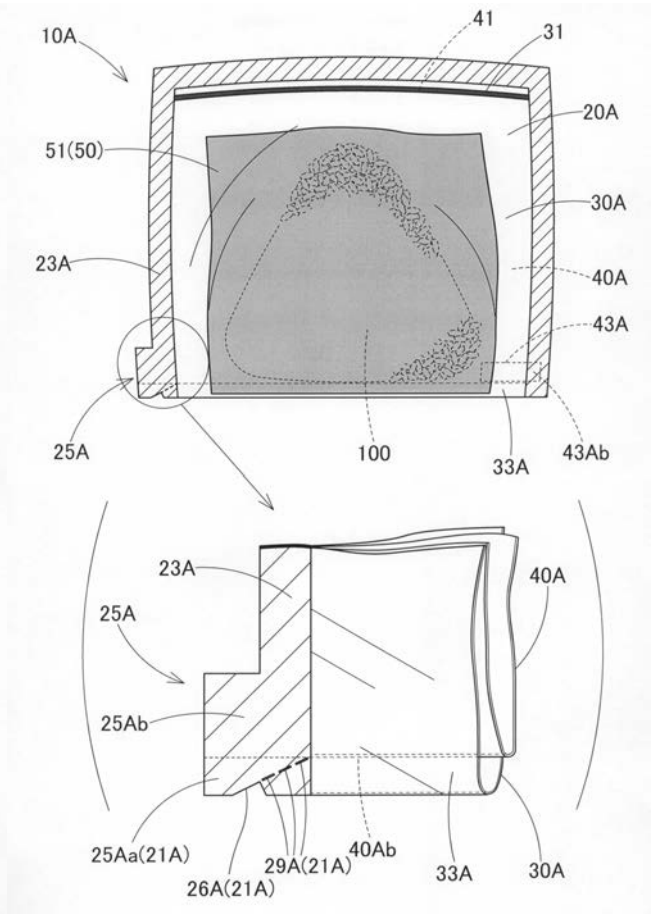
【図 10】



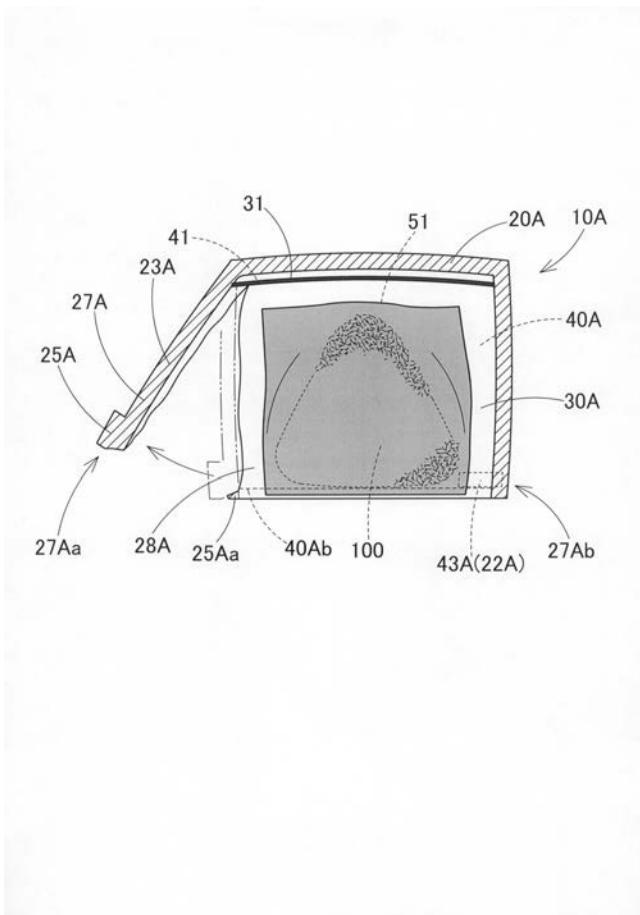
【図 1 1】



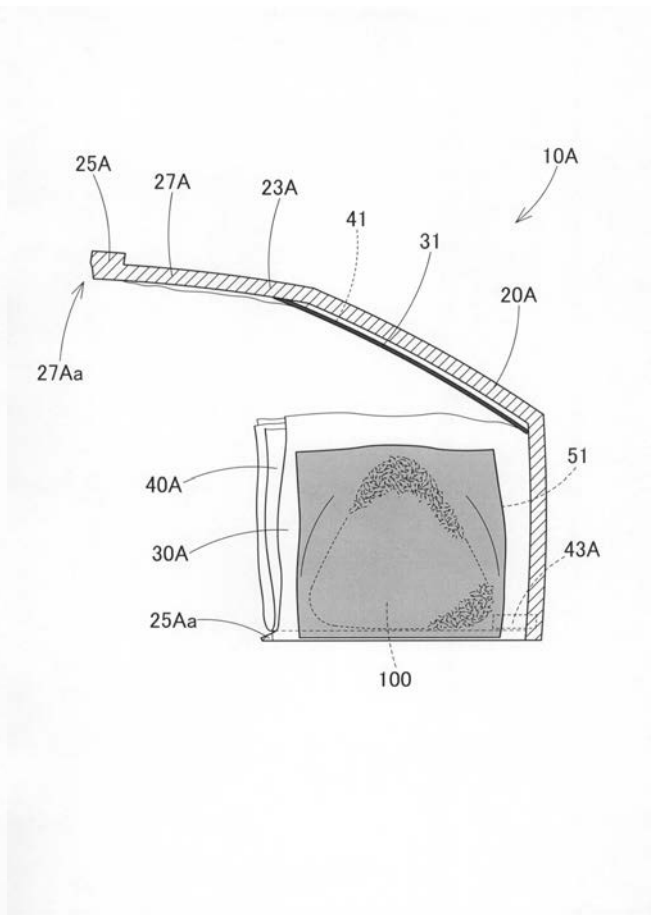
【図 1 2】



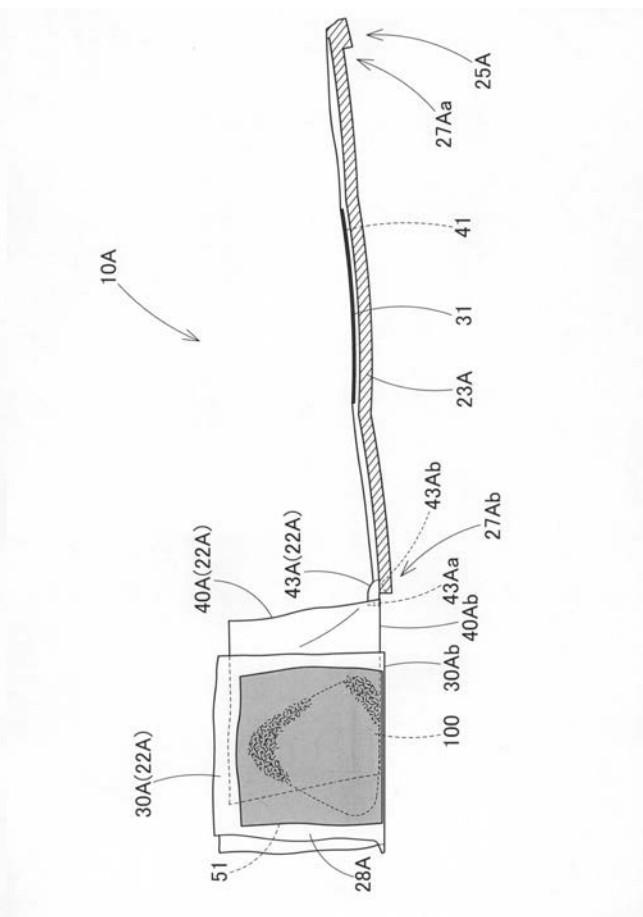
【図 1 3】



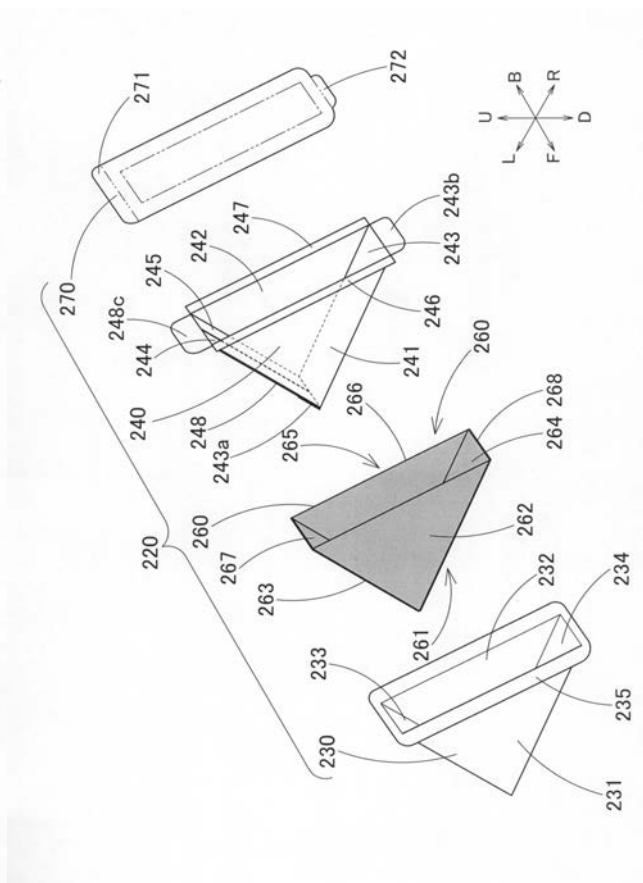
【図 1 4】



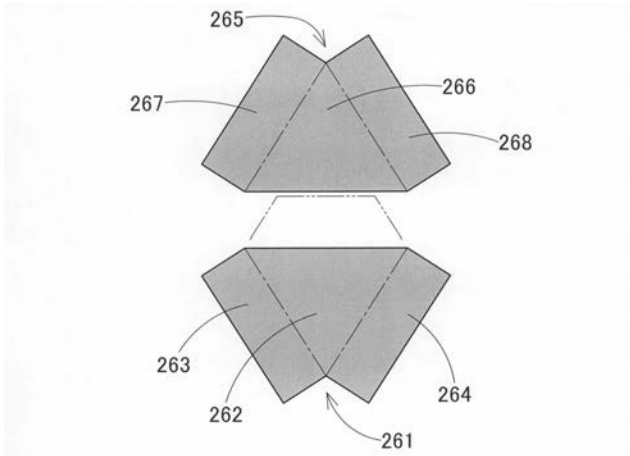
【図 16】



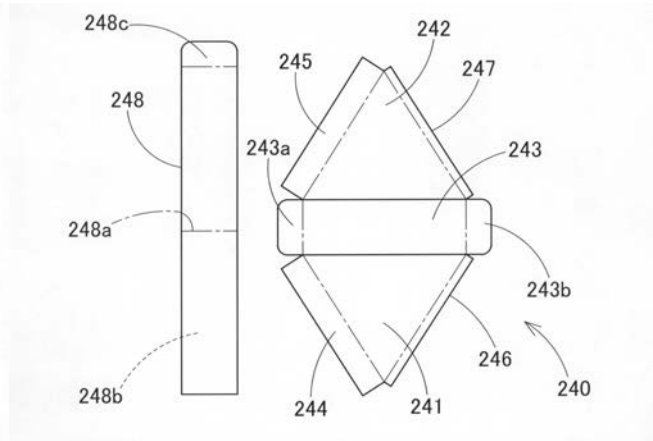
【図 18】



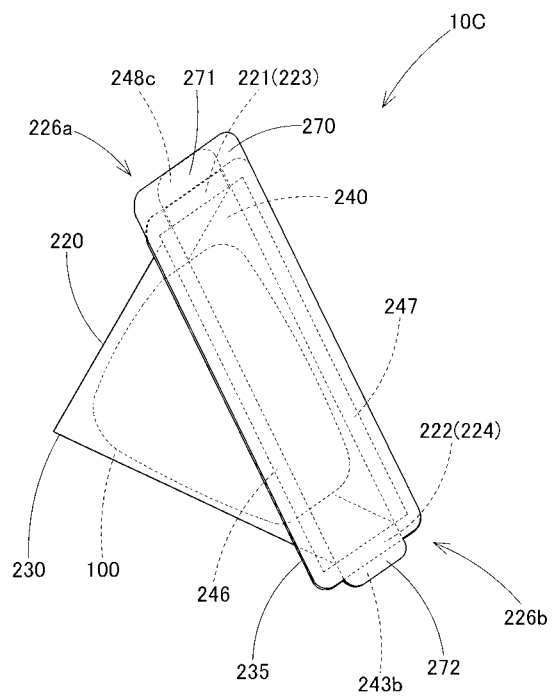
【図 19】



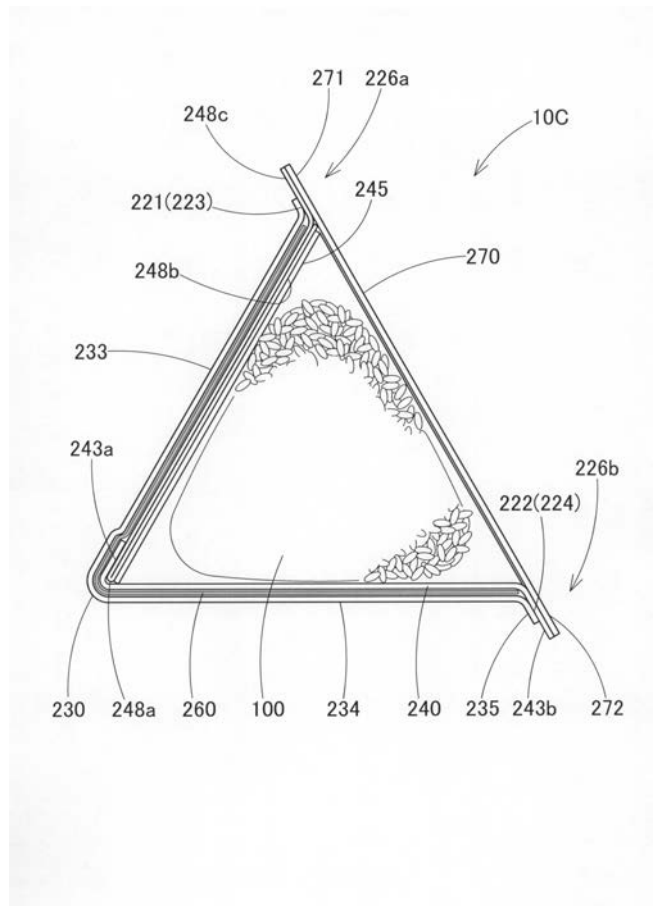
【図 20】



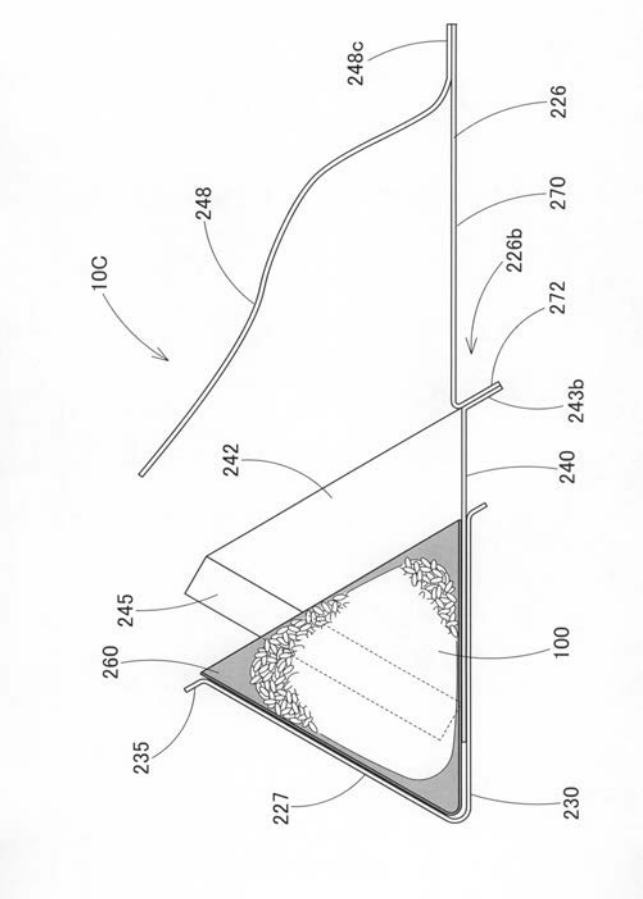
【図 21】



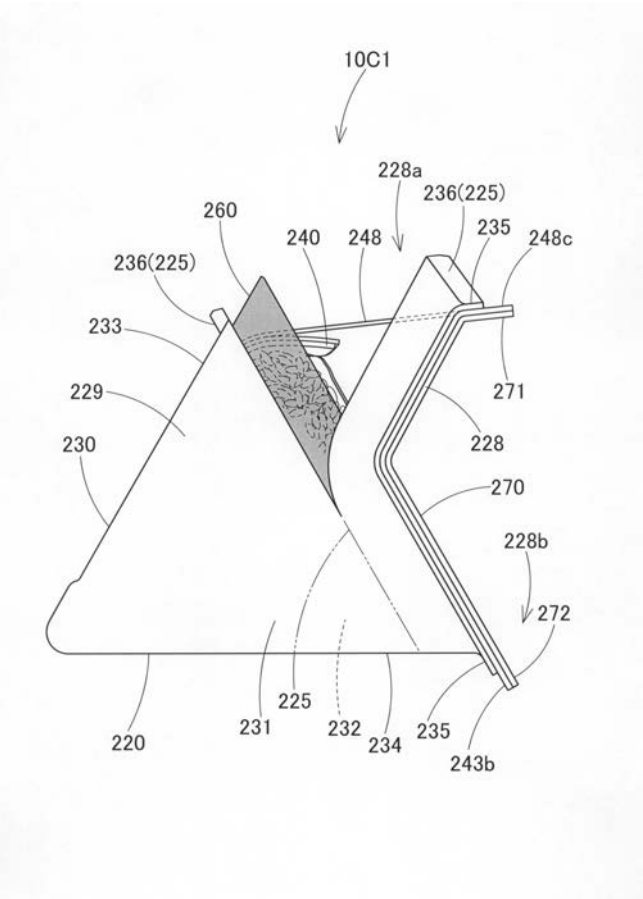
【図 22】



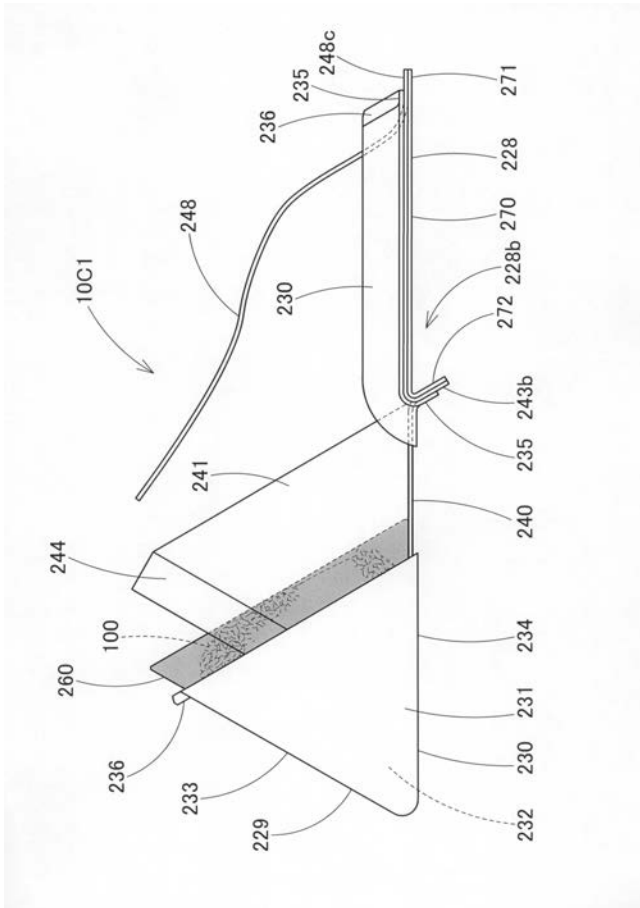
【図 24】



【図 2 6】



【図 27】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3E035 AA09 BA08 BB08 CA07
3E086 AB01 AC14 AC15 AD01 BB51 CA02
4B023 LE15 LP18 LT48